

# 年報

—平成14年度—

2003

大磯町郷土資料館

## 目次

〔事業報告〕	
庶務 .....	2
・組織および職員	
・運営委員会	
・予算	
・維持管理	
・入館者	
学芸 .....	4
・企画展	
・学級／講座	
・刊行物	
・調査／研究／普及	
・博物館実習	
・博物館資料の収集と利用	
文化財 .....	26
・文化財専門委員会	
・文化財保護	
・埋蔵文化財	
〔研究報告〕	
ウミガメの漂着記録（2002年）	
北水慶一 .....	30
資料紹介／	
『昭和九年八月調査「未完」郷土の傳説 （民間信仰史）』（山田一男著）	
佐川和裕 加藤廣美 .....	1

# 事業報告

---

# 庶務

## ■組織および職員

教育長	教育次長	郷土資料館	(郷土資料班)
大津修己 (～平成14年12月)			
渡邊修司 (平成15年1月～)	柏木功男	館長 鈴木一男	主査/学芸員 佐川和裕
			主査/学芸員 國見 徹
			主任主事/学芸員 北水慶一
			臨時職員 加藤廣美
			臨時職員 畠山恵子
			臨時職員 渡邊恵子
			臨時職員 遠藤 仁

## ■運営委員会

### <委員の構成>

- ・委員長/石田和夫 (学識経験者)
- ・副委員長/廣瀬利郎 (社会教育委員)
- ・委員/稲葉和也 (文化財専門委員)
- 蒲生 晃 (学校長)
- 近藤英夫 (町史編さん委員)

### <委員会の開催>

- ・第1回/平成14年7月3日 平成13年度年報(案)、平成14年度事業計画ならびに進捗状況
- ・第2回/平成15年2月28日 平成14年度事業の進捗状況、平成15年度事業概要

## ■予算

### <当初予算の推移>

単位：円

年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
金額	62,040,000	57,439,000	57,666,000	69,757,000	62,801,000	61,638,000

□郷土資料館費 61,638,000円      □文化財関係費 11,960,000円      ■計 73,598,000円

### <平成14年度決算>

単位：円

事業	運営委員会	運営事務	維持管理	学芸活動	東海道400年	企画展
金額	40,400	4,613,676	14,938,261	2,992,228	342,052	887,105
事業	教育普及	文化財専門委員会	文化財調査保存	緊急地域雇用創出特別対策	計	
金額	75,726	163,020	4,062,275	7,560,000	35,674,743	

□職員給与(4人分) 36,446,068円      ■歳出合計 72,120,841円

## ■維持管理

### <委託業務>

- ・総合清掃委託/(株)リンレイサービス神奈川支店
- ・空調設備保守点検委託/高砂熱学工業(株)横浜支店
- ・消防用設備保守点検委託/相日防災(株)小田原支店
- ・昇降機保守点検委託/ダイコー(株)横浜営業所

- ・自動ドア保守点検委託／（株）神奈川ナブコ
- ・自家用電気工作物保守点検委託／小島電気管理事務所
- ・浄化槽保守点検委託／湘南興業（有）
- ・警備委託／（株）全日警横浜支社
- ・燻蒸業務委託／関東港業（株）横浜営業所
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会
- ・祭り船解体・組立（展示）委託／大磯御船祭保存会
- ・動物剥製委託／（有）尼ヶ崎科学標本社

<施設の修繕>

- ・中央監視装置復旧対応／山武ビルシステム（株）横浜支店
- ・電話機修理／東陽工業（株）神奈川支店
- ・受水槽修繕／高砂熱学工業（株）横浜支店
- ・受水槽バルブ交換／高砂熱学工業（株）横浜支店
- ・人荷用エレベーター修繕／ダイコー（株）横浜営業所

■入館者

<入館者の推移>

単位：人、日

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	累計（昭和63年～）
入館者数	28,415	28,252	25,395	32,886	30,835	502,417
1日平均／開館日数	100／282	101／279	91／277	117／281	112／274	122／4,099

<月別入館者数>

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	2,713	3,313	3,032	1,739	2,029	1,663	3,965	3,036	1,250	1,751	2,304	4,040	30,835
1日平均	123	123	159	72	78	75	158	126	59	83	104	168	112

<見学・視察>

館対応分のみ、単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	—	3	3	2	2	2	6	1	—	3	—	—	22

<学校利用>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼稚園	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
小学校	—	1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	3
中学校	—	1	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3
その他	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合計	—	2	3	1	—	1	2	—	—	—	—	—	9

<研修室の利用>

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	10	12	9	12	6	10	10	9	9	10	8	9	114

## 学 芸

### ■特別展 (東海道宿駅制度400年記念事業)

東海道シンポジウム大磯宿大会記念展「旧高麗寺の寺宝」

期 間 平成14年10月12日(土)～11月17日(日)

開場日数 30日間

会 場 企画展示室

資料点数 50点

料 金 無料

入場者数 5,351人

(趣旨) 東海道を結ぶ宿場による「まちおこし」「まちづくり」を目的として、昭和63年(1988)に滋賀県土山町で発足した東海道シンポジウムは、各宿場が持つ歴史のなかで培ってきた文化や伝統を再発見し、あわせて未来のまちづくりを見据えて各宿場の持ち回りによって開催されてきた。本年度はく第15回東海道シンポジウム大磯宿大会として10月12日・13日の2日間にわたって大磯町が会場となるため、同大会記念展として開催する。

(内容) 大磯町の東端にそびえる高麗山(高麗寺山)は、その特異な山容により、陸上・海上ともに遠方から仰ぐことのできるランドマークとして、古くから信仰の対象となってきた。特に、高麗(来)寺や高麗権現社は、朝鮮半島からの渡来人とのかかわりが説かれており、今尚多くの謎を秘めている。江戸時代には、高麗寺村は大磯宿から分村独立し、上野寛永寺の末寺である天台宗高麗寺の寺領の村として成立した。高麗寺は明治政府による神仏分離政策によって廃絶しているが、高麗寺の遺物は高麗神社(明治30年に高来神社と改称)と慶覚院に引き継がれている。本展示ではその一部を公開展示した。なお、展示では、本年度第1回企画展「文化財特別公開」において公開展示した木造神像群(高来神社蔵)ならびに木造仁王像(慶覚院蔵)を中心に構成し、近世以前の神仏混淆の宗教的空間を創り出した。仁王像を企画展示室の中央昇降展示台に展示し、ガラス展示ケース内にその他の神仏像を展示した。資料の基本的な配置は第1回企画展に準じているが、新たな神仏像を補完しているため、神仏混淆の宗教的空間をより一層強く体感していただけたのではないかと考えている。主な展示資料は次のとおり。

- ・木造神像(7軀/高来神社蔵) ・木造虎御前坐像(高来神社蔵) ・千手観世音堂棟札(高来神社蔵)
- ・仁王尊像棟札(高来神社蔵) ・寛永20年天海僧正より高麗寺雲上院掟書(高来神社蔵)
- ・木造仁王立像(慶覚院蔵) ・木造慈恵大師坐像(慶覚院蔵) ・木造毘沙門天立像(慶覚院蔵)
- ・木造虎御前坐像(慶覚院蔵) ・地藏堂扁額(慶覚院蔵) ・木造白山大権現坐像(慶覚院蔵)
- ・角大師守札(当館蔵) ・神社規則雛型(当館蔵) ・寛延3年高麗寺村絵図(当館蔵)
- ・寛政7年高麗寺村絵図(当館蔵) ・天保3年寺領高麗寺村田畑絵図面(当館蔵)
- ・享和3年御分間絵図御用村方明細書上帳(当館蔵)

(担当) 佐川

### ■企画展

文化財特別公開「初公開高来神社蔵木造神像群 修復完工慶覚院木造仁王像」

期 間 平成14年5月19日(日)～6月23日(日)

開場日数 30日間

会 場 企画展示室

出品点数 30点

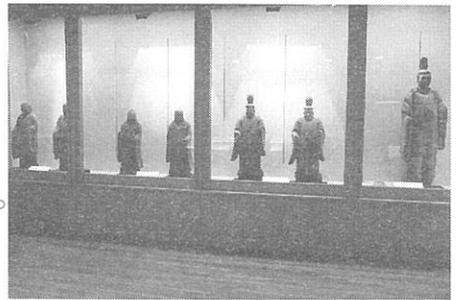
料 金 無料

入場者数 4,780人

(趣旨) 平成12年度に調査を実施した高来神社蔵木造神像群、並びに平成13年度に修理が完工した慶覚院蔵木造仁王像を公開展示する。高来神社神輿殿に遺されていた11軀の神像群のうち、破損の進んで



いた2軀の首裏部より、弘安5年（1282）の年号と「勸進聖玄西」の墨書銘が確認された。鎌倉時代制作の本格的な神像彫刻であり、県内はもちろん我が国の彫刻史上においても稀にみる重要な遺例といえることから、11軀ならびに残存軀体を初公開する。また、仁王像は鎌倉仏師による近世初期の作と思われ、県内では近世初期の作例は珍しい。神奈川県における彫刻史上から重要であり、さらに廃絶した高麗寺の遺物として歴史上の価値が高いことから、平成11年度に大磯町指定有形文化財として指定され、平成12年度から2ヵ年をかけて保存修理が行われた。このたび、修理完工にあたって特別公開する。あわせて、今後の高麗寺研究の基礎資料としての活用や、文化財の保護継承のあり方を考える契機となることを期待する。



（内容） 企画展示室の中央昇降展示台に、大きく重量のある仁王像2軀を展示した。神像群については保存状態が憂慮されるものもあることから、展示ケース内での展示とした。神仏像は資料的な性格から全体としての展示数は限られてしまうが、それぞれの個体が見やすいような配置を心がけた。既に神仏像の彩色は失われているものの、若干照明を落とすなどの配慮をしながら、あわせてライティングによって印象的な演出を試みた。また、高来（麗）寺、高麗権現社、高来（麗）神社、慶覚院のかかわりについての年表を作成したり、仁王像の修理工程を紹介する写真パネルを展示し理解の一助とした。なお、期間中にミュージアムトークを開催した。

（担当） 佐川

#### ミニ展示「収蔵昆虫標本展」

期 間 平成14年12月8日（日）～平成15年1月26日（日）

開場日数 33日間

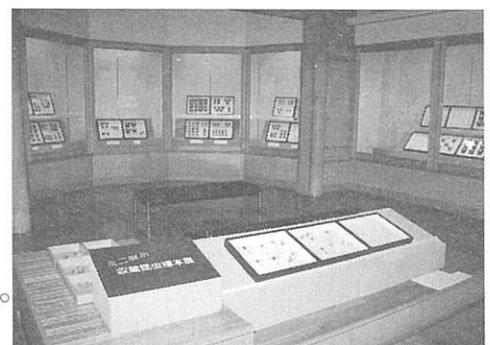
会 場 企画展示室

出品点数 約1,000点

料 金 無料

入場者数 2,360人

（趣旨） 近年、ナガサキアゲハ、ムラサキツバメなど生息域が、紀伊半島以西と考えられていた昆虫が当町において確認されている。地球温暖化の影響なのか、人為的に持ち込まれたものなのか不明であるが、今後の状況が注目される。当町で確認されている昆虫の周知および啓発を目的に企画展を開催する。本展示を契機に、昆虫についての情報が当館に寄せられることを期待する。



（内容） 当館所蔵の昆虫標本のうち、チョウ類、セミ類、トンボ類を中心に122種を展示した。所蔵の標本は寄贈していただいたものが多く、寄贈に対する感謝の念から当館で採集したもの以外については、採集者名を強調するように付記した。本展示では、ガラスケース内に標本箱を配列したが、観覧者と実物の標本との間にガラス板が2枚入るような形となり、スポットライトの光が反射して資料が見えづらくなるなど、ライティングにはたいへん苦慮した。視的な分類展示が主であったが、セミの抜け殻を紹介するコーナーでは、実際に手に触れ、形態の違いが分かるようにした。

（担当） 北水

#### ミニ展示「テレビ放送50年記念展示」

期 間 平成14年1月31日（金）～2月15日（土）

開場日数 12日間

会 場 エントランスホール

出品点数 3点

料 金 無料

入場者数 1,030人

(趣旨) テレビ放送が開始されて50年を迎えたことを記念して、当館所蔵のテレビを展示する。あわせて、生活資料のうち初期の電化製品について調査収集対象としていることをアピールし、関連資料の寄贈も期待する。

(内容) 当館所蔵の寄贈資料のうち、昭和30年代初め、昭和37年、昭和42年にそれぞれ購入されたテレビを選んで展示をした。展示されたテレビを実際に購入したり、見て育った世代の方々が、展示品の前に子どもや孫に対して解説したり、思い出を語っている光景がみられた。

(担当) 佐川

### 「雛人形展」

期 間 平成15年2月16日(日)～4月6日(日)

開場日数 41日間

会 場 企画展示室

出品点数 約1,000点

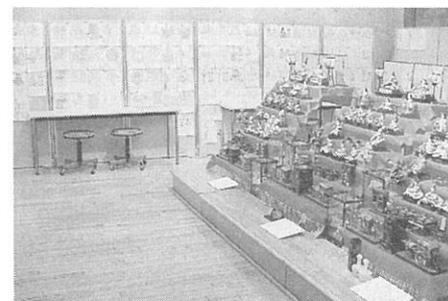
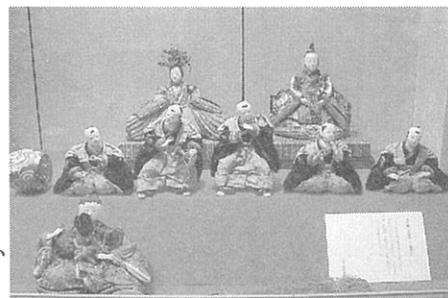
料 金 無料

入場者数 6,156人

(趣旨) 近年、生活様式や家屋様式の変化により、段飾りを中心とする雛人形が当館へ相次いで寄贈されている。人々の意識の変容によって、年中行事に対する認識や取り組み方が変化していることを鑑み、いわゆる伝統行事を再考していただく契機として開催する。また、本展示は、平成6年度、同8年度、同10年度、同12年度と、隔年ごとに開催する恒例の企画展として位置付けている。なお、今回の展示では、資料館と地域の方々との協業の試みのひとつとして、列品作業にボランティアの協力や、来館者による参加型展示を取り入れる。

(内容) 恒例の展示として、収蔵資料を中心に13組の雛人形を展示したほか、平塚市博物館所蔵の享保雛を借用し展示した。なお、収蔵資料の列品作業については資料館と地域の方々との協業の試みとして、「民俗に親しむ会」の参加者に協力を呼びかけたところ、2月12日～15日までの4日間で延べ12名の方々のご協力をいただいた。会期終了後の片付け作業においても、4月8日～10日までの3日間で延べ10名の方々のご協力をいただいた。

また、今回は「参加型」の展示も試みた。これまでの展示において、例えば、蚊帳に入ったことのない子どもたちに蚊帳の出入りや蚊帳の中を体感してもらったり、メンコで遊んだことのない子どもたちにメンコの模造品を用意して遊んでももらったりと、いわゆる「体験」の要素を取り入れた展示は何回となく開催してきた。今回は、「体験」あるいは「体感」から歩を進め、「参加」という要素を取り入れた。企画展示室の一角に「ぬりえコーナー」を設け、14種類の塗り絵を用意して、大人にも子どもにも色鉛筆で自由に塗ってもらい、パネルに貼っていただいた。つまり、資料館と参観者が、一緒に展示を作り上げて行こうというものである。もちろん「参加型」といってもたいへんささやかなものだが、たくさんの方々による作品が増え続けた。親子で楽しんだり、おじいさんやおばあさんがお孫さんと一緒に塗ったり、あるいは「久しぶりに塗り絵をして楽しかった」という若い人のコメントも目立った。4月6日の会期の終了をもって、展示の完成となったが、企画展示室のパネルは塗り絵に飾られて日々華やかになり、開催当初と雰囲気は大きく変化した。一応、「参加型」の企画は成功したのではないかと考えている。最終的に塗り絵の展示は421枚におよんでいる。塗り絵の地域別、年齢別の集計は次のとおり(単位:枚)。



### <地域別>

- ・大磯町内 (201)
- ・平塚市 (66)
- ・二宮町 (17)
- ・小田原市 (11)
- ・茅ヶ崎市 (8)
- ・藤沢市 (7)
- ・寒川町 (4)
- ・秦野市 (3)
- ・横浜市 (3)
- ・川崎市 (3)
- ・海老名市 (3)
- ・伊勢原市 (2)
- ・大和市 (2)
- ・鎌倉市 (1)
- ・東京都内 (6)
- ・香川県 (1)
- ・不明 (83)

### <年齢別>

- ・1～9歳 (257)
- ・10～19歳 (56)
- ・20～29歳 (11)
- ・30～39歳 (8)
- ・40～49歳 (1)
- ・50～59歳 (1)
- ・60～69歳 (5)
- ・70～79歳 (2)
- ・80歳以上 (1)
- ・不明 (75)

また、主な展示資料は次のとおり。

- ・享保雛 (小田原市／平塚市博物館蔵)
- ・文化14年随神 (大磯町／南本町区蔵)
- ・江戸末期雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・明治37年雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・明治中期～後期雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・明治後期～大正初期雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・昭和8年雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・昭和21年雛人形 (二宮町／当館蔵)
- ・昭和29年雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・昭和35年雛人形 (平塚市／当館蔵)
- ・昭和37年雛人形 (大磯町／当館蔵)
- ・昭和38年雛人形 (平塚市／当館蔵)
- ・昭和43年雛人形 (秦野市／当館蔵)

(ボランティア) 中村知子、西山縫子、新見由美子、平田浩子、藤田輝子、渡辺富子  
(担当) 佐川

## ■学級・講座

### <民俗に親しむ会>

日 時 平成14年4月27日(土)、5月25日(土)、6月15日(土)、7月13日(土)、8月24日(土)、  
9月21日(土)、11月16日(土)、12月14日(土) 平成15年1月18日(土)、2月12日(水)・  
13日(木)・14日(金)・15日(土)、3月15日(土)

場 所 当館研修室

参加者 延73人

(内容) 平成11年度から継続している講座で、資料館の民俗資料整理を通して、地域の文化伝承に関わりを持つとともに、地域の方々がお持ちの情報や知識を提供していただくことによって、資料を生き返らせ、さまざまな活用の可能性を広げることを目的とする。活動内容は、平成11年度より引き続いて衣類資料の整理を行った。14年度についても、活動の成果を多くの方々に還元するために、近い将来展示等を企画することを念頭においた活動を展開した。また、資料館と参加者との情報の共有や、コミュニケーションを図るために「民俗に親しむ会通信」No.34～44を発行した。なお、初めての試みとして、布や着物の専門家をボランティア講師として招いて指導を受けたり、「雛人形展」の展示準備と片付けの作業を活動の一環として組み入れて協力をいただいた。



(担当) 佐川

### <草と木の調査>

日 時 平成14年4月13日(土)・27日(土)、5月11日(土)・25日(土)、6月8日(土)・22日(土)、  
7月6日(土)、8月3日(土)・24日(土)、9月14日(土)・28日(土)、10月5日(土)、  
11月16日(土)、12月14日(土) 平成15年1月18日(土)、2月8日(土)・22日(土)、  
3月8日(土)・22日(土)

場 所 当館研修室、町内

参加者 延164人

(内容) 平成11年度から大磯町の植物を対象とした町民参加型調査を実施している。平成11・12年度は秋の植物の分布調査、平成13年度以降は県立大磯城山公園の開花確認調査を中心に園内の植物の目録化、分布確認をおこなっている。調査の方法は、城山公園を5つの区域に分け、それぞれ3～4名のチームとなるように園内を散策し、確認した植物を調査表の地図に記すというものである。まとめとして、年度ごとの城山公園の花ごよみを作成した。2年間で調査の回数は35回を数え、確認種類数は合計で501種にのぼる。今後はシダや、キノコ類等の調査も並行しておこない、城山公園植物のガイドブックの作成についても検討していきたい。

(担当) 北水

### <海の教室>

日 時 ①平成14年7月21日(日) ②10月19日(土) ③平成15年1月25日(土) ④3月8日(土)

場 所 大磯町内(大磯照ヶ崎海岸～北浜海岸)、図書館大会議室、郷土資料館研修室

参加者 延74人

(内容) 平成12年度から開始している講座で、地域博物館の可能性を求め、分野にこだわらずに生の地域資料を利用しながら新しい学問領域の提示を念頭におくことを目的としている。「海」をメインテーマに、長いスパンで継年的に取り組む。海を知るためには海ばかりをみていたのでは十分でないことを認識しながら、海という素材に対して可能な限りさまざまな視点からアプローチしようという試みである。本年度は、海にかかわる祭礼についてのレクチャーと現地見学会を1回、ビーチコーミングを2回、環境を考える体験会を1回実施した。



- ① 大磯・御船祭見学会(場所/図書館大会議室～大磯港、参加者/27人)
  - ② ビーチコーミング(場所/大磯照ヶ崎海岸～北浜海岸、参加者/14人)
  - ③ 環境を考える～ケナフで紙漉き～(場所/郷土資料館研修室、参加者/25人)  
講師/県立高校教諭 小田雅彦氏
  - ④ ビーチコーミング(場所/大磯照ヶ崎海岸～北浜海岸、参加者/8人)
- (担当) 佐川、北水

### <ミュージアムトーク>

日 時 平成14年6月2日(日)

会 場 郷土資料館研修室・企画展示室

参加者 83人

テ ー マ 「文化財特別公開」

講 師 神奈川県立歴史博物館専門学芸員・大磯町文化財専門委員 薄井和男氏

(内容) 文化財特別公開「初公開高来神社蔵木造神像群



修理完工慶覚院木造仁王像」の関連事業として実施した。公開中の神像群ならびに仁王像について、一般観覧者を対象とした解説を行った。研修室にて概略を説明した後、企画展示室にて展示を案内、質疑に応じた。

(担当) 佐川

#### <草と木の調査特別公開講座「高麗山の植物観察」>

日 時 平成14年11月2日(土)

場 所 高麗山

参加者 27人

講 師 神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員・大磯町文化財  
専門委員 高橋秀男氏

(内容) 当館講座「草と木の調査」では、毎年、アンケート調査を実施している。講座の問題点や要望等を記入するものであるが、その中で樹木同定について知識を深める講座を企画してほしいという要望を多くいただいている。要望をもとに講師を招き、特別公開講座を行った。本講座を特別公開講座として会員以外の方の参加も呼びかけたのは、講座のPRを意識したことによる。

本講座は、最初に樹木の葉やドングリ(堅実)を中心とした同定の解説をおこない、その後、高麗山の山頂まで登り実際に樹木の観察をした。狭い山道での解説は参加者27人全員が聞き取るには難しい状況であったが、一様に真剣に聴講する姿が見られた。以降の講座において樹木についての意見交換が活発になったことは、本講座がたいへん有意義なことであったことを物語っている。

(担当) 北水



#### ■刊行物

##### <図録、冊子>

- ・ Report—大磯町郷土資料館だより—23 B 5版 8頁1,000部(平成14年11月刊)
- ・ 資料館資料7『大磯町郷土資料館収蔵資料目録絵はがきⅡ』 A 4版96頁 500部(平成15年2月刊)
- ・ 年報—平成13年度— A 4版30頁 500部(平成15年3月刊)

##### <チラシ>

- ・ 文化財特別公開チラシ「初公開高来神社蔵木造神像群 修復完工慶覚院木造仁王像」 A 4版 — 4,000部(平成14年5月刊)
- ・ 東海道シンポジウム大磯宿大会記念展チラシ「旧高麗寺の寺宝」 A 4版 — 3,000部(平成14年10月刊)
- ・ ミニ展示チラシ「収蔵昆虫標本展」 A 4版 — 3,000部(平成14年12月刊)
- ・ 企画展チラシ「雛人形展」 A 4版 — 3,000部(平成15年2月刊)

##### <その他>

- ・ 文化財特別公開リーフレット「初公開高来神社蔵木造神像群 修復完工慶覚院木造仁王像」 A 4版6頁コピー対応(平成14年5月刊)
- ・ 利用案内パンフレット A 4版—3,000部(平成14年9月・平成15年3月刊)
- ・ 東海道シンポジウム大磯宿大会記念展リーフレット「旧高麗寺の寺宝」 A 4版6頁コピー対応(平成14年10月刊)
- ・ 常設展リーフレット「海からの来訪者—大磯のアカウミガメ—」 A 4版4頁2,000部(平成14年10月刊)
- ・ ミニ展示リーフレット「収蔵昆虫標本展」 A 4版4頁コピー対応(平成14年12月刊)

- ・企画展リーフレット「雛人形展」 A 4版6頁コピー対応（平成15年2月刊）
- ・講座通信「民俗に親しむ会」 A 4版1～4頁コピー対応（年間・随時）
- ・講座通信「海の教室」 A 4版6頁コピー対応（平成13年7・10・12月、平成15年2月刊）
- ・講座通信「草と木の調査」 A 4版12頁コピー対応（平成15年3月刊）
- ・常設展リーフレット「詩歌・文学にみる大磯の景観」 A 4版 — 2,000部（平成15年3月刊）
- ・常設展リーフレット「器の名称」 B 5版 — 2,000部（平成15年3月刊）

## ■調査・研究・普及

### <館内外の活動>

- ・博物館資料調査／年間／大磯町内外（鈴木、佐川、國見、北水）
- ・神奈川県博物館協会役員会、部会出席／年間／神奈川県立歴史博物館他（鈴木、北水）
- ・神奈川県博物館協会50周年記念事業実行委員会出席／年間／神奈川県立歴史博物館（國見）
- ・日本民具学会理事会、編集委員会出席／4月21日、5月19日、9月15日／成城大学他（佐川）
- ・大磯町立国府中学校1年野外教室講義／5月10日／鷹取山方面（北水）
- ・日本考古学協会総会出席／5月25日・26日／東京都立大学（國見）
- ・近代国際陶磁研究会研究発表／6月2日／愛知県陶磁資料館（國見）
- ・相模民俗学会総会出席／6月2日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・大磯町教育研究所特別研究部会講義／6月5日、7月31日、10月3日、11月4日、12月18日、1月15日／教育研究所他（北水）
- ・桜美林大学博物館見学実習講義／6月15日／館内（佐川）
- ・駒澤大学博物館学講義／6月16日／館内（國見）
- ・東海大学課程資格教育センター博物館実習講義／8月1日・2日／東海大学（佐川）
- ・大磯町教育研究所研修「総合学習に生かせる大磯の自然散策」講義／8月9日／照ヶ崎海岸（北水）
- ・身近な自然とのふれあい教室講義／8月23日、9月21日・22日、11月30日／町内他（北水）
- ・日本民具学会年会実行委員会出席／8月26日、10月20日、11月8日／横浜市歴史博物館（佐川）
- ・大磯町立大磯中学校1年職場訪問／9月19日・26日／当館（國見、北水）
- ・相模民俗学会研究発表／9月22日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・平塚市立南原小学校4年社会科講義／10月4日／南原小学校（佐川）
- ・歴史的建造物の保存活用方策研究会作業部会出席／10月9日・16日・23日・30日、11月6日・13日／大磯町役場（佐川・北水）
- ・日本民具学会年会出席／11月9日・10日／都筑公会堂他（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校3年総合学習講義／11月20日／大磯小学校（北水）
- ・総合研究「関東地方における民具の流通」研究会出席／12月1日／箱根町立郷土資料館（佐川）
- ・大磯小学校4年社会科講義／1月9日／大磯小学校（佐川）
- ・ガイドボランティア協会研修講義／1月10日／さざれ石（佐川）
- ・相模原市立博物館「道祖神を調べる会」講義・案内／1月13日・14日／当館他（佐川）

### <施設・展示解説>

- ・山北町町史編さん班／6月21日／3人（佐川）
- ・大磯町教育委員会新採用職員研修会／8月6日／6人（北水）
- ・東海道シンポジウム連絡会／8月21日／40人（鈴木・北水）
- ・東京地方税理士会平塚支部／9月20日／10人（鈴木）
- ・平塚市岡崎地区社会福祉協議会／10月2日／50人（國見）
- ・藤村記念館／10月16日／35人（佐川）

- ・ 秦野市教育委員会文化財めぐり／11月4日／35人（鈴木）
- ・ 藤沢市文化財保護推進員／11月27日／9人（國見）
- ・ 秦野ぶらり会／1月5日／30人（鈴木）

#### <執筆>

鈴木一男

2002.5.『『海内第一避暑地』に於ける煉瓦構造物小攷』(共著)『地域考古学の展開』

佐川和裕

2002.4.5.6.7.8.9.10.12.／2003.1.2.3 『民俗に親しむ会 Information』No.34～44 大磯町郷土資料館講座通信

4.5.7.8.12.「大磯町の伝統行事」『大磯町広報』4月号～12月号 大磯町

7.10.12.／2003.2.『海の教室通信』No.6～9 大磯町郷土資料館講座通信

11.「西小磯の七夕行事が国選択に」『Report—大磯町郷土資料館だより—』No.23 大磯町郷土資料館

11.「大磯町における今夏のウミガメ情報」『Report—大磯町郷土資料館だより—』No.23 大磯町郷土資料館

2003.2.資料館資料7『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 絵はがきⅡ』(共著) 大磯町郷土資料館

2.「ミニコラム ビーチコーミング」『民俗』No.183 相模民俗学会

3.「平成14年度博物館実習「展示実習」(分担執筆)『東京家政学院大学生生活文化博物館年報』第12号 東京家政学院生活文化博物館

3.「今、地域博物館の現場で思うこと」『東京家政学院大学生生活文化博物館年報』第12号 東京家政学院生活文化博物館

國見 徹

2002.5.『『海内第一避暑地』に於ける煉瓦構造物小攷』(共著)『地域考古学の展開』

5.「城山窯覚書～三井家城山荘内の陶磁器製作～」『近代陶磁』近代国際陶磁研究会

8.「汽車土瓶」『角川日本陶磁大辞典』 角川書店

北水慶一

2003.3.「ウミガメに関する活動の記録」『年報—平成13年度—』大磯町郷土資料館

3.『草と木の調査だより』2002年度号 大磯町郷土資料館講座通信

加藤廣美

2003.2.資料館資料7『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 絵はがきⅡ』(共著) 大磯町郷土資料館

#### ■博物館実習

平成2年度から受入を行っており、本年度は4大学から5名の実習生を受け入れた。実習期間は平成14年10月16日から26日の間（休館日を除く）、及び9月4日と11月1日の計12日間である。

実習の課程は、実務・実技実習を中心とした前半と、展示替実習を主眼とする後半とに大別される。前半の実習では主に資料の調査や操作に関わる作業を中心に行ない、博物館資料整理の流れや日常の博物館業務に対する認知と理解を得ることを目的としている。実習期間の僅かな日時では専門的知識・技術を習得することは困難であるため、当館では分野を超えた博物館業務の流れを把握してもらうことを第一義としている。実習生に対して学芸員全体で対応する点や実習生の専攻分野を特定しない等の点は、このような事由によるものである。

後半には前半の実習成果を踏まえ、展示替実習を行なう。展示替実習は、実習課程の中核及び総仕上げとして位置付けている。実習の内容は、常設展示室の一隅を利用して小企画展を行なうものであり、展示の企画立案から実際の完成までの作業は実習生が主体となって進め、学芸員は監修・指導的立場と

して関わることとなる。今回は、本年8月に大磯町西小磯の海岸でアカウミガメの産卵が確認されたことと相俟って、『大磯のアカウミガメ』と題する展示とした。既存の館蔵資料を中心に借用資料を組み合わせて展示を構成した。またあわせてB5版4頁のリーフレットを作成した。

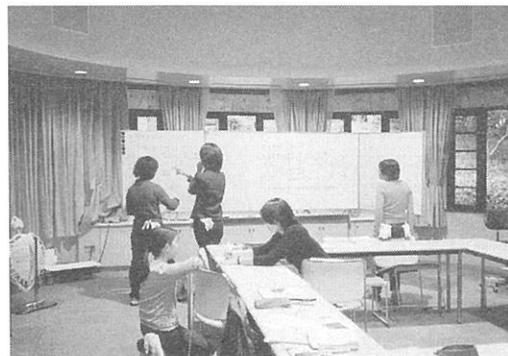
<実習生>

斎藤麻弥子（駒澤大学）、野村ともこ（駒澤大学）、近藤夢美（聖心女子大学）、尾崎梨乃（東海大学）  
波多野夏実（東京農業大学）

<課程>

月 日	曜日	午 前	午 後
9月4日	水		ガイダンス
10月16日	水	講義（資料館の概要）	町内施設見学
17日	木	民具整理（漁船クリーニング）	考古資料整理／民具整理
18日	金	考古資料講義／講座資料作成	文化財めぐり下見／民具整理
19日	土	「海の教室」参加	漂着物整理／展示替打合せ
20日	日	資料梱包	軸物・箱物の取扱い／映写機操作
21日	月	休 館 日	
22日	火	展示替実習（打合せ、資料調査、旧展示片付け等）	
23日	水	展示替実習（資料クリーニング、写真撮影等）	
24日	木	展示替実習（展示台作成、原稿作成等）	
25日	金	展示替実習（展示台作成、キャプション作成、パネル作成等）	
26日	土	展示替実習（リーフレット編集、列品、片付け、記録作成等）	
11月1日	金	展示点検、補足作業	課題提出、総括

（担当）國見、北水、佐川



〈資料の特別利用〉

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者	資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
文書 他	一括	撮影/発表	H14. 5. 21	個人	写真	1	撮影/掲載	H14. 10. 18	(株)タウン ニュース社
館内展示	—	撮影/記録	H14. 6. 4	個人	館内展示	—	撮影/掲載	H14. 10. 25	読売新聞社
建物外観	—	撮影/掲載	H14. 6. 5	個人	館内展示	—	撮影/資料	H14. 11. 1	個人
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 5	個人	建物外観	—	撮影/掲載	H14. 11. 9	(株)ル・カレ
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 6	個人	館内展示	—	撮影/資料	H14. 11. 1	個人
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 13	個人	民俗資料	6	撮影/発表	H14. 12. 1	個人
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 13	個人	町政要覧	1	撮影/掲載	H14. 12. 3	彰国社
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 13	個人	土器	44	撮影/発表	H14. 12. 8	個人
館内展示	—	撮影/資料	H14. 6. 13	個人	絵はがき・写真	2	撮影/掲載	H14. 12. 25	神奈川県自然環 境保全センター
館内展示	—	撮影/発表	H14. 6. 15	個人	館内展示	—	撮影/資料	H15. 1. 12	鎌倉市 教育委員会
ポジフィルム	2	撮影/展示	H14. 7. 19	小田原城 天守閣	館内展示	—	撮影/資料	H15. 1. 15	個人
館内展示	—	撮影/授業	H14. 7. 26	個人	館内展示	—	撮影/資料	H15. 1. 15	個人
図録	2	撮影/放送	H14. 8. 7	毎日放送	絵はがき	5	撮影/掲載	H15. 1. 22	寒川町史 編さん課
資料	6	撮影/放送	H14. 8. 8	(株)ワン・ツー・	館内展示 ワン・プロダクツ	—	撮影/発表	H15. 1. 30	個人
絵はがき	1	撮影/放送	H14. 8. 17	(株)ハウフルス	館内展示	—	撮影/資料	H15. 2. 2	個人
土器	22	撮影/発表	H14. 9. 3	個人	館内展示	—	撮影/刊行	H15. 2. 18	読売新聞社
土器	31	撮影/資料	H14. 9. 3	個人	写真	1	撮影/資料	H15. 2. 22	個人
建物外観	—	撮影/発表	H14. 9. 4	(株)ドットコム ワークス	館内展示	—	撮影/資料	H15. 2. 26	個人
絵はがき	1	撮影/掲載	H14. 9. 5	寒川町	館内展示	—	撮影/資料	H15. 2. 26	個人
建物外観	—	撮影/掲載	H14. 9. 12	(株)ドットコム ワークス	館内展示	—	撮影/資料	H15. 2. 26	個人
写真	2	撮影/発表	H14. 9. 14	個人	館内展示	—	撮影/資料	H15. 3. 2	個人
文書	2	撮影/刊行	H14. 9. 26	平塚市博物館	館内展示	—	撮影/資料	H15. 3. 4	個人
土器	22	撮影/資料	H14. 10. 6	個人	写真	1	撮影/掲載	H15. 3. 18	神奈川県自然環 境保全センター
絵はがき	1	撮影/資料	H14. 10. 1	光葉企業(株)	絵はがき	14	撮影/資料	H15. 3. 26	個人
文献	3	撮影/発表	H14. 10. 1	個人	土器	5	撮影/発表	H15. 3. 27	個人
館内展示	—	撮影/発表	H14. 10. 1	個人	写真	5	撮影/掲載	H15. 3. 28	神奈川県自然環 境保全センター
館内展示	—	撮影/発表	H14. 10. 1	個人					

〈資料の館外貸出〉

資料名	点数	利用目的	期 間	申請者	資料名	点数	利用目的	期 間	申請者
文書	30	町史編纂	H14.4.1 ～10.18	大磯町立 図書館	写真	1	パネル作成	H14.9.11	(株)久米設計
創作こけし他	6	展示	H14.5.1 ～6.19	憲政記念館	写真	2	参考資料	H14.9.1 ～9.18	個人
書類 他	4	町史編纂	H14.5.21 ～11.1	大磯町立 図書館	化石 他	31	授業	H14.10.1 ～10.29	大磯町立 小学校
ビデオテープ (木遣り歌)	18	研究資料	H14.5.2 ～5.31	大磯町立 大磯中学校	文書 他	一括	展示	H14.10.12 ～12.15	平塚市博物館
浮世絵	1	観光ポスター	H14.5.3 ～6.19	ケイズ	図録	1	参考資料	H14.10.2 ～11.17	湘南新聞社
図録	1	参考資料	H14.6.1 ～6.30	日本テレワーク(株)	写真	3	紙面掲載	H14.10.31 ～11.19	神奈川中央 交通(株)
写真	1	参考資料	H14.6.12 ～6.23	(株)てらいんく	リバーサル フィルム	2	紙面掲載	H14.11.1 ～12.20	大磯町役場 企画財政室
写真	2	紙面掲載	H14.6.2 ～7.14	湘南リビング 新聞社	テックアプト 他	4	展示	H14.11.14 ～11.19	個人
写真	6	刊行物掲載	H14.7.2 ～7.21	OM2	文書	16	町史編纂	H14.11.14 ～12.28	大磯町立 図書館
考古資料	5	町史編纂	H14.7.1 ～9.30	大磯町立 図書館	ビデオテープ (御船祭)	1	授業	H14.11.16 ～12.5	白百合女子 大学
ポジフィルム	2	展示	H14.7.1	小田原城	浮世絵	1	参考資料	H14.11.26 ～12.15	個人
絵はがき	3	参考資料	H14.7.1	個人	ネガ	1	参考資料	H15.2.19 ～3.10	大磯町役場
写真	4	紙面掲載	H14.7.2 ～8.15	(株)タウン ニュース	土質標本 他	91	授業	H15.2.20 ～3.12	大磯町立 国府中学校
図録	2	放映	H14.8.7 ～8.14	毎日放送	考古資料	5	図化	H15.2.20 ～3.31	大磯町立 図書館
写真	3	刊行物掲載	H14.8.3 ～9.10	(株)タウン ニュース	ビデオ	2	参考資料	H15.2.26 ～3.14	個人
図録	2	参考資料	H14.8.2 ～9.29	個人	万石通し 他	4	展示	H15.2.28 ～3.11	二宮町 教育委員会
写真	1	ホームページ 掲載	H14.9.4 ～9.4	(株)ドットコム ワークス	ネガ	1	参考資料	H15.3.5 ～3.5	個人

<寄贈資料>

(敬称略)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
0421	H14.4.1	陶器類 他	一括	飯田福信 大磯町大磯	1102	H14.11.3	トビ職道具 他	一括	加藤嘉義 大磯町大磯
0422	H14.4.14	写真パネル 他	一括	尾崎芳治 大磯町大磯	1104	H14.11.19	防火用石灰 を入れる箱	1	渡辺栄一郎 大磯町大磯
0423	H14.4.23	庚申講中道具	一括	庚申講中 大磯町高麗	1105	H14.11.28	蝶標本 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0424	H14.4.24	磁器 他	一括	西山敏夫 二宮町山西	1201	H14.12.3	ヤドカリ	1	天野美佐子 大磯町西小磯
0501	H14.5.15	身分証明書	1	杉谷一子 東京都西東京市	1202	H14.12.8	蝶標本	140	波多野収三 大磯町西小磯
0502	H14.5.16	アシナガバチ の巣 他	一括	木村純子 大磯町大磯	1203	H14.12.8	イタゴ 他	151	匿名
0503	H14.5.19	スライドフィルム	3	飯田福信 大磯町大磯	1204	H14.12.17	蝶類標本 他	一括	鈴木重行 二宮町百合が丘
0601	H14.6.15	ナガジュバン	1	西山縫子 大磯町石神台	1205	H14.12.17	蝶類展翅プ レート	56	妻木徳一 二宮町百合が丘
0602	H14.6.19	クジラの歯	一括	新見紀雄 大磯町東小磯	1206	H14.12.25	メジロの巣 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0603	H14.6.30	キモノ	1	尾沢千枝子 秦野市南矢名	1207	H14.12.25	冊子 他	一括	加藤登思枝 大磯町国府本郷
0701	H14.7.2	磁器 他	2	飯田福信 大磯町大磯	0102	H15.1.15	ミシン	1	中島源吾 大磯町大磯
0702	H14.7.2	徳利	1	飯田福信 大磯町大磯	0103	H15.1.28	カメラ	1	飯田福信 大磯町大磯
0704	H14.7.16	アオバト (ヘイ死体)	1	木田ハマ 大磯町高麗	0201	H15.2.5	漂着物 他	一括	安藤次郎 平塚市東真土
0705	H14.7.24	衣服	一括	加藤登思枝 大磯町国府本郷	0202	H15.2.6	カメラ	1	渡辺信之 大磯町大磯
0706	H14.7.30	陶器甕 (底部のみ)	1	(株)湘栄建設	0203	H15.2.12	桶職人道具他	一括	蔦野秀夫 大磯町東小磯
0801	H14.8.5	衣類	一括	西山敏夫 二宮町山西	0204	H15.2.14	漂着物 他	一括	安藤次郎 平塚市東真土
0803	H14.8.5	蝶のぬけがら	一括	木村純子 大磯町大磯	0205	H15.2.18	オテダマ	30	杉山ヨネ 大磯町国府新宿
0804	H14.8.20	貝がら 他	4	飯田福信 大磯町大磯	0206	H15.2.19	人形 他	一括	藤田輝子 大磯町大磯
0805	H14.8.20	コゲラ (ヘイ死体)	1	田端 裕 大磯町高麗	0207	H15.2.19	漂着物 他	一括	安藤次郎 平塚市東真土
0806	H14.8.27	人形 他	2	滝山昭枝 平塚市桜ヶ丘	0208	H15.2.20	陶磁器	一括	安藤次郎 平塚市東真土
0901	H14.9.1	アカウミガメ (子ガメ)	1	山口光一 大磯町国府本郷	0209	H15.2.28	土器 他	2	細住年光 大磯町大磯
0902	H14.9.11	シカ目撃の資料	一括	日下正武 二宮町百合が丘	0210	H15.2.28	人形 他	8	蔦野秀夫 大磯町東小磯
0903	H14.9.12	カイメン	一括	伊藤貞夫 平塚市万田	0301	H15.3.12	雛人形 他	一括	中村千代 大磯町高麗
0904	H14.9.19	ヤナオケ 他	25	西山敏夫 二宮町山西	0302	H15.3.14	エビス、ダイコク 他	7	西山敏夫 二宮町山西
1001	H14.10.11	石器	2	矢島繁男 大磯町石神台	0303	H15.3.23	写真	2	宮代伊佐雄 大磯町大磯
1002	H14.10.25	吸入器 他	3	加藤嘉義 大磯町大磯	0304	H15.3.29	ナワカゴ 他	一括	西山敏夫 二宮町山西
1101	H14.11.2	絵はがき	3	-					

<寄託資料>

(敬称略、寄託期間：H14.4.1～H16.3.31)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
0401	H14.4.1	雛人形	一式	田川順三 横浜市緑区	0411	H14.4.1	古文書 他	一括	守屋町子 大磯町黒岩
0402	H14.4.1	高札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0412	H14.4.1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯
0403	H14.4.1	一本松稲荷講中 資料	一括	宮代治吉 大磯町大磯	0413	H14.4.1	掛軸 他	一括	福島幹高 西小磯大部落
0404	H14.4.1	菊池重三郎関係 資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0414	H14.4.1	統監帽 他	一括	福島幹高 西小磯東区
0405	H14.4.1	クロッカスガーデン 看板	1	添田光雄 大磯町国府本郷	0415	H14.4.1	獅子頭	2 (一対)	原田繁雄 裡道区
0406	H14.4.1	書(断片)	一括	加藤文八 平塚市諏訪町	0416	H14.4.1	書籍 他	一括	飯島成三 横浜市中区
0407	H14.4.1	古文書	一括	後藤 勲 大磯町月京	0417	H14.4.1	吉田茂杯 他	5	本田博造 大磯中学校
0408	H14.4.1	稲荷講資料	一括	戸塚 浩 大磯町西小磯	0418	H14.4.1	古文書	1	近藤敬一郎 東京都新宿区
0409	H14.4.1	書籍	2	山川 正 大磯町国府新宿	0419	H14.4.1	書幅	1	二宮勝男 平塚市下吉沢
0410	H14.4.1	子ども会旗 七夕資料	一括	添田孝明 西小磯西子ども会	0420	H14.4.1	随神、屏風	3	宮代泰知 南本町区

<移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
0703	H14.7.2	赤煉瓦	一括	大磯町役場 下水道課	0807	H14.8.28	イタゴ	3	大磯町役場 経済観光課
0707	H14.7.30	国府保育園新築工事 地質調査委託報告書	1	大磯町役場 総務課	1103	H14.11.5	キジ(剥製)	1	大磯町 生涯学習館
0802	H14.8.16	8ミリ撮影機	1	大磯町立 月京幼稚園					

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
0101	H15.1.10	縞見本小裂帖	1	(有)えびな書店 小金井市



		企画展『江の島 縁起巻』図録	2000/11
		『平成12年度 村内遺跡』	2001/03
		『引田高堰遺跡』	2001/09
		企画展『東海道と藤沢宿』図録	2001/11
		『民家解体保存調査報告書(その二)』	2002/03
		『平成13年度 村内遺跡』	2002/03
		『藤沢市文化財調査報告書 第37集』	2002/03
	藤沢市文書館	『藤沢市文書館 紀要 二十四』	2001/11
		『藤沢市史研究 第35号』	2002/03
		『藤沢市資料集(二十六) 相模国鎌倉郡小塚村「御用留」(6)』	2002/06
小田原市	小田原市教育委員会	『平成13年 小田原市遺跡調査発表会 シンポジウム 弥生後期のヒトの移動 発表要旨』	2001/11
		『身近にある 小田原の史跡 川東版』	2002/03
		『小田原城三の丸 藩校集成館跡第Ⅲ・Ⅳ地点』	2002/03
		『久野諏訪ノ原遺跡群Ⅰ』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第90集 平成11年度試掘調査』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第91集 小八幡東畑遺跡 第Ⅲ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第92集 小田原城下天神下跡 第Ⅱ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第93集 小田原城三の丸南堀第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第94集 小田原城三の丸東堀 第Ⅶ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第95集 小田原城三の丸箱根口跡 第Ⅳ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第96集 小田原城下香沼屋敷跡 第Ⅶ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第97集 小田原城三の丸大久保雅楽介邸跡 第Ⅸ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第98集 池上森通遺跡 第Ⅰ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第99集 千代南原遺跡 第Ⅷ地点』	2002/03
		『小田原市文化財調査報告書第102集 小船森遺跡』	2002/03
	小田原市郷土文化館	特別展『小田原の近世絵馬』 図録	2002/11
	小田原城天守閣	特別展『神楽面 一失われた村の神楽』 図録	2002/03
		『小田原城絵図 文久図』	2002/07
	神奈川県立 生命の星・地球博物館	『神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第6号 (2000年度)』	2001/12
		『自然科学のとびら』 26~32号	2001-2003
		『神奈川県立博物館 研究報告 自然科学31号』	2002/03
		『神奈川自然史資料 23』	2002/03
		特別展『人と大地と -Wonderful Earth-』 図録	2002/07
		『地球、生命あふれる不思議な星』	2002/07
		『神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第7号 (2001年度)』	2002/10
		『地球、生命あふれる不思議な星 神奈川県立生命の星・地球博物館』	2002/07
		『神奈川県立博物館調査研究報告書 自然科学 第11号 博物館での新しい地学教育』	2002/09
		特別展『ザ・シャーク』 図録	2002/12
箱根町	箱根町立郷土資料館	『館報 第18号』	2002/03
		『館報 第19号』	2002/10
		企画展『箱根は箱根 一小説「箱根山」の風景』 図録	2002/10
	箱根町教育委員会	『箱根町指定史跡 東光庵熊野権現旧跡 保存事業報告書』	2002/03
真鶴町	真鶴町立中川一政美術館	『美術館だより 第10号』	2002/03
山北町	山北町教育委員会	『山北町の仏像調査報告書』	2002/03
	山北町地方史研究会	『足柄乃文化 第29号』	2002/04
横浜市	馬の博物館	『馬の博物館 研究紀要 第14号』	2001/12
		『馬の博物館所蔵 木下順二氏寄贈馬書目録』	2001/12
		『馬の博物館 所蔵品選集 増補版』	2001/12
		『馬の博物館だより NO.39』	2002
		『うまはくブックレット NO.4 日本の古式競馬』	2002/01
		春季特別展『働く馬』 図録	2002/03
	大佛次郎記念館	『おさがり選書 第11集』	2002/03
	(財)かながわ考古学財団	『かながわ考古学財団調査報告45 池子遺跡群Ⅸ』	1999/03
		『かながわ考古学財団調査報告59 道志導水路関連遺跡』	1999/03
		『かながわ考古学財団調査報告119 和田山やぐら群遺跡』	2001/09
		『かながわ考古学財団調査報告120 覚栄寺やぐら群遺跡』	2001/09
		『かながわ考古学財団調査報告126 長岡西遺跡』	2002/01
		『かながわ考古学財団調査報告127 稲荷木遺跡』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告129 南原遺跡』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告130 佐原城跡遺跡』	2002/02
		『研究紀要7 かながわの考古学』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告131 稲荷山貝塚』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告132 正覚寺やぐら群』	2002/03
		『かながわ考古学財団調査報告133 川尻中村遺跡』	2002/03

	『かながわ考古学財団調査報告134 原口遺跡Ⅲ』	2002/03
	『かながわ考古学財団調査報告135 原口遺跡Ⅳ』	2002/03
	『かながわ考古学財団調査報告136 比奈窪中屋敷横穴墓群』	2002/09
	『かながわ考古学財団調査報告137 宅間谷西第2やぐら群Ⅱ』	2002/10
	『かながわ考古学財団調査報告138 覚園寺総門跡東やぐら群Ⅱ』	2002/10
	『かながわ考古学財団調査報告139 松葉ヶ谷奥やぐら』	2002/10
	『年報9 平成13年度』	2002/10
	『かながわの遺跡展 槍から弓矢へ 石器時代の狩猟』図録	2002/10
	『かながわ考古学財団調査報告140 山王堂東谷やぐら群Ⅱ』	2002/11
	『かながわ考古学財団調査報告141 小田原城三の丸 杉浦平太夫邸跡』	2002/12
	『かながわ考古学財団調査報告142 大北横穴墓群』	2002/12
	『かながわ考古学財団調査報告143 上ノ町遺跡』	2003/02
	『かながわ考古学財団調査報告144 長坂宮ノ前やぐら群』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告145 竹の谷戸やぐら』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告146 白山神社前遺跡所在やぐら』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告147 走水神社やぐら群』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告148 和田山やぐら群遺跡Ⅲ』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告149 腰越東横穴墓』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告150 田戸台横穴墓群』	2003/03
	『かながわ考古学財団調査報告154 明石谷やぐら群 明石谷東やぐら群』	2003/03
	『研究紀要8 かながわの考古学』	2003/03
神奈川近代文学館	『神奈川近代文学館』第77～79号	2002
	『神奈川近代文学館年報 2001年(平成13年度)』	2002/06
神奈川県教育委員会	『神奈川県 埋蔵文化財調査報告書44』	2002/04
	『社会科資料2002 中地区の社会教育』	2002/06
	『平成14年埋蔵文化財担当職員等講習会 一発表要旨一』	2003/01
(財)神奈川県建設業協会	『SINKEN 2003年 NO.271』	2003
(財)神奈川県国際交流協会	『Hello friends NO.225』	2002
(財)神奈川市町村振興協会	『自治展望 41』	2002/12
神奈川県博物館協会	『NETWORK』第22～23号	2001—2002
	『神奈川県博物館協会会報 第72号』	2002/03
	『神奈川県博物館協会会報 第73号』	2002/03
	『神奈川県博物館協会 加盟館園職員名簿 2002』	2002/09
神奈川県民俗芸能保存協会	『民俗芸能情報提供』4—6月、7—9月	2002
	『かながわの民俗芸能 第65号』	2002
	『かながわの民俗芸能 第66号』	2002
神奈川県立近代美術館	『新館準備ニュース 第1号』	2002
神奈川県立公文書館	『神奈川県立公文書館だより 第8号』	2002
	『神奈川県立公文書館紀要 第4号』	2002/03
	『平成13年度 神奈川県立公文書館年報』	2002/06
神奈川県立歴史博物館	『神奈川県立歴史博物館だより』159～162	2002—2003
	『神奈川県立博物館研究報告 一人文科学一 第28号』	2002/03
	特別展『海を渡ったアイヌの工芸 一英国人医師マンローのコレクションから』図録	2002/04
	『平成13年度 神奈川県立歴史博物館年報』	2002/12
	特別展『日韓交流と FOOTBALL』図録	2003/03
	特別展『変わり兜 一戦国の奇想天外』図録	2003/03
神奈川地域史研究会	『神奈川地域史研究会 会報』第63～66号	2001—2002
	『神奈川地域史研究 第18号』	2000/03
	『神奈川地域史研究 第20号』	2002/03
グリーンタフ事務局	『横浜の自然は今』	2003/01
寺家ふるさと村「四季の家」	『はなあふ通信』5～2月号	2000—2003
城山公園公園事務所	『GREEN WAVE 2002 NO.8』	2002/03
湘南考古学研究所	『今田殿窪遺跡発掘調査報告書(藤沢市 NO.195遺跡)』	2003/01
	『湘南考古学同好会会報90 「第20回 藤沢市遺跡調査発表会」を迎えて』	2003/02
玉川文化財研究所	『神奈川県伊勢原市 成瀬第二地区遺跡群高森地区 発掘調査報告書』	1999/03
	『神奈川県相模原市 田名塩田遺跡群Ⅰ 発掘調査報告書』	1999/03
	『神奈川県伊勢原市 沼目・坂戸遺跡第Ⅱ地点 発掘調査報告書』	1999/03
	『神奈川県伊勢原市 成瀬第二地区遺跡群下糟屋C地区第2,3地点 発掘調査報告書』	2001/03
	『神奈川県相模原市 田名塩田遺跡群Ⅱ 発掘調査報告書』	2001/03
	『神奈川県川崎市麻生区 岡上一 4 遺跡第2地点 発掘調査報告書』	2001/12
	『神奈川県厚木市 及川上向原遺跡 発掘調査報告書』	2002/01
	『神奈川県小田原市 小田原城三の丸御長屋跡 第Ⅱ地点発掘調査報告書』	2002/03
	『横浜市保土ヶ谷区 南原遺跡 発掘調査報告書』	2002/03
	『神奈川県海老名市 国分尼寺北方遺跡第25次調査 発掘調査報告書』	2002/03

		『神奈川県伊勢原市 成瀬第二地区遺跡群』	2002/03
		『神奈川県藤沢市 鍛冶山遺跡 発掘調査報告書』	2002/03
		『神奈川県相模原市 田名塩田遺跡群Ⅲ 発掘調査報告書』	2002/03
		『横浜市金沢区 上行寺東やぐら群遺跡 発掘調査報告書』	2002/03
		『神奈川県綾瀬市 早川天神森遺跡 発掘調査報告書』	2002/04
		『神奈川県小田原市 久野下馬道上遺跡 発掘調査報告書』	2002/06
		『神奈川県海老名市 上浜田4号墳 発掘調査報告書』	2002/06
		『神奈川県川崎市高津区 間際根横穴墓群 第3地点 発掘調査報告書』	2002/08
		『神奈川県横浜市港北区 下田西遺跡 発掘調査報告書』	2002/12
ニューspark (日本新聞博物館)		企画展 『「海外邦字紙」と日系人社会』 図録	2002/11
横浜市教育委員会		『横浜の指定・登録文化財』	2001/03
		『平成2年度 文化財年報 (埋蔵文化財 その19)』	2002/03
		『弥名寺の石造塔 一史跡弥名寺境内石造物調査報告書一』	2002/03
横浜自然観察の森		『ゴロスケ報々』 第81~86号	2001-2002
(財)横浜市ふるさと歴史財団		『平成13年度 埋蔵文化財センター 年報12』	2002/11
		『マイウェイ NO.46』	2002
		『箕輪洞谷横穴墓群発掘調査報告 (2002年3月)』	2002/03
		『有隣 第415号』	2002/06
横浜市立野毛山動物園		『年輪 一半世紀の軌跡一』	2002/03
横浜市緑政局		『横浜市動物園年報 平成13年度 2001』	2002/08
横浜市歴史博物館		企画展 PART3 『東海道双六の世界』 図録	2001/01
		『横浜市歴史博物館紀要 vol.5』	2001/03
		特別展 『甦る大環豪集落』 図録	2001/07
		企画展 PART1 『屏風・絵巻に描かれた東海道』 図録	2001/09
		企画展 PART2 『東海道と保土ヶ谷』 図録	2001/10
		『横浜市歴史博物館年報 平成12年度版』	2001/11
		企画展 『中世の棟札 一神と仏と人々の信仰一』 図録	2002/01
横浜人形の家		『EVENT NEWS』 2001・11~2003・4	2001-2003
(株)有隣堂		『南原遺跡発掘調査報告』	2002/12
川崎市	川崎市教育委員会	『川崎市 文化財調査集録 36』	2001/03
	川崎市市民ミュージアム	『東海道宿駅制度400年記念 東海道 一日本橋、そして川崎宿へ一』 図録	2001/09
		『こどもニュース』 夏号	2002
		『museum news』 vol.62-67	2001-2003
		『川崎市市民ミュージアム紀要 第14集』	2002/03
	川崎市立 日本民家園	『川崎市立 日本民家園 (日本民家園だより)』 第47~48号	2002
鎌倉市	鎌倉市教育委員会	『古都鎌倉を取り巻く山稜部の調査概要』	2001/11
		『永福寺跡 一遺物編・考察編一』	2002/03
		『鎌倉大仏周辺発掘調査報告書』	2002/03
		『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告 (第1分冊)』	2002/03
		『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告 (第2分冊)』	2002/03
		『杉本寺周辺遺跡』	2002/03
		『鎌倉の埋蔵文化財 5』	2002/03
		『鎌倉大仏周辺の発掘調査 一大仏造営手法と大仏殿の推定一』	2002/11
	鎌倉国宝館	『鎌倉志料 第九巻』	2001/12
	鎌倉八幡宮社務所	『鶴岡』 NO.88~92	2002-2003
	鎌倉文学館	企画展 『武者小路実篤 一文学・人・鎌倉』 図録	2002/04
		企画展 『文学と鎌倉大仏』 図録	2002/08
		企画展 『女流作家と鎌倉』 図録	2002/09
三浦市	三浦市教育委員会	『三浦市埋蔵文化財調査報告書 第7集 赤坂遺跡』	2002/03
		『三浦市埋蔵文化財調査報告書 第8集 海防陣屋関連土壘』	2002/03
		『三浦市埋蔵文化財調査報告書 第9集 平成11年度遺跡試掘調査』	2002/03
横須賀市	横須賀市教育委員会	『横須賀市文化財調査報告書 第37集』	2002/03
		『横須賀市埋蔵文化財調査報告書 第4集 猿島遺跡群』	2002/03
		『横須賀市埋蔵文化財調査報告書 第10集 打木原遺跡群』	2002/03
		『平成14年度 横須賀市埋蔵文化財発掘調査速報展』 図録	2003/03
	横須賀市自然・人文博物館	『横須賀市博物館報 NO.48』	2001/12
		『横須賀市博物館資料集 第26号』	2002/01
		『横須賀市博物館研究報告 (自然科学) 第44号』	2002/03
		『横須賀市博物館研究報告 (人文科学) 第46号』	2002/03
		『考古資料図録 XⅦ』	2002/03
逗子市	逗子市教育委員会	『国指定史跡名越切通 保存管理計画策定報告書』	2001/03
		『埋蔵文化財試掘確認調査報告1 (平成9~11年度) 蟹田遺跡 (NO.114) 発掘調査』	2001/03
		『埋蔵文化財試掘確認調査報告2 沼間台遺跡 (NO.33)、地藏山遺跡 (NO.117)』	2002/03
葉山町	有明文化財研究所	『神奈川県葉山町 木の下遺跡』	2002/12

	かながわ学術研究交流財団	『K-FACE ニュースレター "Faceto フェイス" 12号』	2001
	葉山しおさい博物館	『潮騒ガイドブック⑥ 三浦半島 干潟・砂浜の生物』	2002/03
		『潮騒だより No.13』	2002
	葉山町教育委員会	『シンポジウム 前期古墳を考える ～長柄・桜山の地から～』	2002/12
	山口逢春記念館	特別展『昭和日本画壇のモダニスト』図録	2001/10
		『研究紀要 第2号』	2003/03
愛川町	神奈川県町村教育長会	『会報』 18、19	2002-2003
厚木市	厚木市教育委員会	第13回収蔵資料店『活動する青年たち』図録	2001/05
		特別展示『東海道に矢倉沢往還』図録	2001/09
		第16回収蔵資料店『あつぎの民俗芸能』図録	2001/12
	厚木市文化財協会	『阿夫利 第16号』	2002/11
	神奈川自然環境保全センター	『自然情報 第1号』	2002/03
綾瀬市	綾瀬市教育委員会	『あやせウォークガイド』	2002/03
海老名市	海老名市郷土資料館「海老名市温故館」	特別展『学校ノ ハジマリ ハジマリ〜』 図録	2001/10
相模原市	神奈川自然保全研究会	『神奈川自然保全研究会報告書 第16号』	2002/04
	相模原市教育委員会	『神奈川県相模原市 光光学園遺跡発掘調査報告書』	2002/01
		『相模原市埋蔵文化財調査報告26 当麻亀ノ甲・西原遺跡』	2002/03
		『相模原市埋蔵文化財調査報告27 田名塩田・西山遺跡』	2002/03
		『相模原市埋蔵文化財調査報告28 田名塩ノ内遺跡 第2地点』	2002/03
		『相模原市埋蔵文化財調査報告29 相原八幡前遺跡 第5地点』	2002/03
		『神奈川県相模原市 当麻亀形遺跡』	2002/03
		『平成14年 相模原市文化財年報』	2002/08
	相模原市立 相模川ふれあい科学館	『相模川ふれあい科学館だより No.17』	2002
	相模原市立博物館	『相模原市立博物館ニュース』 VOL.26~29	2002
		特別展『星の測量』 図録	2001/07
		東海道宿駅制度400年記念特別展『"道" 再発見 一道の役割とその移りかわり』 図録	2001
		『相模原市立博物館研究報告 第11集』	2002/03
		『相模原市民俗調査報告書 大島・上矢部・田部・上溝・当麻地区の民俗』	2002/03
座間市	座間市教育委員会	『座間健康ふるさとマップ』	2001/08
		『皆原西遺跡Ⅱ遺跡 発掘調査報告書』	2001/03
		『座間むかしむかし 第二十四集』	2002/03
津久井町	津久井町教育委員会	『津久井城の調査 V』	2002/03
大和市	大和市教育委員会	企画展『矢倉沢往還と下鶴間宿』 図録	2001/11
		『下鶴間の小倉家資料調査報告書2 一葉類・民俗資料一』	2002/03
		『下鶴間長谷川家資料総合調査報告書 目録編4』	2002/03
		『大和の民話・伝説シリーズ 「子育てのうばさま」』	2002/09
茨城県	大洗町教育委員会	『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書 第1冊 大貫落神北貝塚』	2000/03
		『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書 第2冊 大貫落神南貝塚』	2000/03
	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	第7回特別展『常陸戦国記』 図録	2002/03
		『茨城県土浦市 史跡 土浦城』	2002/02
		『土浦市 上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第7号 2000年度』	2002/03
		『茨城県土浦市 常名台遺跡群確認調査 神明遺跡(第3次遺跡)』	2002/03
		特別展『"おかね" はじめて物語』 図録	2003/03
	土浦市教育委員会	『茨城県土浦市 永国遺跡(第2次調査)』	2002/09
栃木県	小山市立博物館	『小山市立博物館報 第18号 平成12年版』	2001/09
		『小山市立博物館紀要 第7号 2001』	2001/03
		企画展『昭和の子ども ～あそびとくらし百科』 図録	2002/04
		『小山市立博物館報 第19号 平成13年版』	2002/09
		企画展『乙女の古代瓦と下野国』 図録	2002/10
群馬県	赤城村歴史資料館	『赤城山麓の弥生びと 一樽遺跡発見70年一』 図録	2001/09
	北橋村教育委員会	『北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集 房谷戸遺跡Ⅳ』	2001/11
		『平成13年度 北橋村文化財年報3』	2002/03
		『北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集 北橋村村内遺跡Ⅳ』	2002/03
	草津市教育委員会	『草津川放水路関連遺跡発掘調査報告書3 中畑遺跡発掘調査報告書Ⅰ』	2002/03
埼玉県	高麗神社	『桜陰筆記』	2001/09
	さいたま川の博物館	『かわはく』 No.13~15	2002
		特別展『水辺の妖怪』 図録	2002/07
	埼玉県立博物館	『THE AMUSEUM 108号』	2001
		『埼玉県立博物館紀要 27』	2002/03
		『紀要 一28』	2003/02
	税務大学校租税資料館	平成12年度特別展示『江戸時代の税 一年貢一展』 図録	2002/03
		平成13年度特別展示『江戸時代の村と税』 図録	2002/03
		『平成14年3月 租税資料目録 明治後期編』	2002/03
		『租税資料館報 平成13年度版』	2002/07

	鶴ヶ島市教育委員会	『若葉台遺跡 O・P・Q・R・T地点、富士見西児童公園 発掘調査報告書』	1993/03
		『鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告 第50集 北権現遺跡 1・2次調査 発掘調査報告書』	2002/03
		『鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告 第51集 小萱野遺跡 高倉館 発掘調査報告書』	2002/03
	富士見市立難波田城資料館	企画展『ちよっと昔の着物語 一野良着・よそゆき・ちよい着一』図録	2002/04
		企画展『写真展 富士見の暮らしとできごと』	2002/10
	富士見市立資料館	『平成13年度 富士見市立資料館 要覧』	2002/07
	三芳町教育委員会	『みよしほたる文庫 三芳の歴史』	2002/03
千葉県	我孫子市鳥の博物館	『我孫子市鳥の博物館調査研究報告 第10巻 2002年3月』	2002/03
		『我孫子市鳥の博物館報 第12号 平成13年度版』	2002/06
	伊能忠敬記念館	『伊能忠敬記念館 第3号 平成12年度』	2002/03
	国立歴史民俗博物館	『古代日本 文字のある風景 一金印から正倉院文書まで一』図録	2002/03
		企画展示『中世寺院の姿とくらし 一密教・禅僧・湯屋一』図録	2002/10
		植物苑特別企画『季節の伝統植物』 図録	2002/08
	市立市川考古博物館	『平成10年度 市立市川考古博物館年報 第27号』	1999/10
		『平成11年度 市立市川考古博物館年報 第28号』	2000/10
		『平成12年度 市立市川考古博物館年報 第30号』	2001/10
	市立市川自然博物館	『市立市川自然博物館だより』 73~78号	2001-2002
		『平成12年度 市立市川自然博物館』	2000/03
	館山市立博物館	『ミュージアム発見伝』 No.69~70	2002
	千葉県立中央博物館	『千葉中央博物館研究報告 一人文学 第7巻 第2号 (通巻15号)』	2002/03
	千葉市立加曾利貝塚博物館	『貝塚博物館紀要 第29号』	2002/03
		『貝塚博物館研究資料 第6集 加曾利貝塚人骨の総合調査』	2002/03
	流山市立博物館	『常設展示図録』	2001
		『流山市立博物館 年報 No.23』	2001/10
	松戸市立博物館	『まつどミュージアム』 No.10,11	2001
		『松戸市立博物館年報 第8号 平成12年度 (2000)』	2001/10
		『松戸市立博物館紀要 第9号』	2001/03
		企画展『とっとり青戸上寺地遺跡展 一松戸で弥生人に会える- 弥生人の脳発見!』図録	2002/07
		『松戸市立博物館年報 第9号 平成13年度 (2001)』	2002/08
		企画展『はにわの十字路』 図録	2003/03
	茂原市立美術館・郷土資料館	郷土企画展『門前町茂原と日蓮聖人』図録	2001/10
東京都	朝日新聞社	『朝日クロニカル 週刊20世紀 通巻24号 (昭和41年)』	1999/07
	板橋区立郷土資料館	『東京都板橋区 志村坂上遺跡N地点発掘調査報告書』	2002/03
		特別展『中山道 一板橋宿 江戸の出入り口一』図録	2002/10
		特別展『版画にみる東京の風景』 図録	2002/10
		『板橋区立郷土資料館紀要 第14号』	2002/11
		『板橋区立郷土資料館年報 第15号 平成十三年度版』	2002/12
	大田区立郷土博物館	『博物館ノート』 No.121~126	2002
		特別展『木綿 一染められた遊び心一』図録	2002/02
		『紀要 第12号 平成13 (2001) 年度』	2002/03
	お札と切手の博物館	『お札と切手の博物館ニュース vol.14』	2003
	お茶の水女子大学	『博物館実習報告 第17号 (2001年度)』	2002/02
		『博物館実習報告 第18号 (2002年度)』	2003/02
		『大塚町遺跡 2』	2002/03
	外務省外交資料館	『外交資料館報 第16号 平成14年6月』	2002/06
	儀礼文化学会	『儀礼文化ニュース』 122~130号	2001-2003
	(株)久米設計事務所	『新建築別冊 日本建築家シリーズ® 久米設計』	1997/10
		『建築文化6 1990Vol.45No.524』	1990/06
	グリーンタフ事務局	『自然観察』 241~259号	2002-2003
	(株)講談社	『週刊 TIME TRAVEL 再現日本史 第57号』	2002/06
	品川歴史館	『一品川から巣立ったひと・もの・情報展- 鎌倉武士西に走り トランジスタ海を渡る』	2003/03
		『品川歴史館紀要 第16号』	2001/03
		『平成11・12年度 品川区立品川歴史館年報 第8号』	2001/03
		『品川歴史館資料目録 摺物編 (一)』	2001/03
		『品川歴史館資料目録 古文書編 (一) 利田家文書』	2000/03
		『品川歴史館紀要 第17号』	2002/03
		『品川歴史館資料目録 映画資料編 (一)』	2002/03
	(財)ジェイアール東海生涯学習財団	『10年のあゆみ』	2002/03
	社団法人 日本ユネスコ協会連盟	『世界遺産年報 2002 (No.7)』	2002/02
		『世界遺産年報 2003 (No.8)』	2002/11
	衆議院憲政記念館	特別展『吉田茂とその時代』図録	2002/05
		『開館30年 憲政記念館所蔵資料目録』	2002/11
	昭和館	『昭和館館報 第2号 (平成12年度)』	2001/09
		『昭和館館報 第3号 (平成13年度)』	2002/10

世田谷区教育委員会	企画展『鍛冶の技と世界 —農村を支えた炎と音—』図録	2001/11
世田谷区立次大夫堀公園民家園	企画展『農村と川 漁とくらしを中心に』図録	2002/11
台東区下町風俗資料館	『下町風俗資料館 号誌』 9月15日～3月15日号	2001—2003
(株)丹青研究所	『Museum Data』 No.53～58	2001—2002
東京都江戸東京博物館	『江戸東京博物館 NEWS』 vol.36—40	2001—2002
	『江戸東京博物館シンポジウム報告書3 幕末明治における江戸東京 文化の受容と発信』	2001/06
	『東京都江戸東京博物館研究報告 第8号』	2002/03
	『東京都江戸東京博物館調査報告書 第13集 隅田川をめぐるくらしと文化』	2002/03
	新発見考古速報展『発掘された日本列島2002』図録	2002/06
	『江戸東京博物館要覧 2002』	2002/08
東京家政学院 生活文化博物館	『東京家政学院生活文化博物館年報 第11・12合併号』	2002/03
	特別展『わたしのお宝自慢!!なんでもコレクション展』図録	2002/10
東京学芸大学教育学部	『研究紀要 付・博物館実習報告 2000年度 第6号』	2001/03
	『研究紀要 黒沢惟昭教授退官記念 付・博物館実習報告 2001年度 第7号』	2002/03
豊島区立郷土資料館	『生活と文化 研究紀要 第11号』	2001/12
	『豊島の集団学童疎開資料集(7) 学寮日誌編I —東京第二師範附属国民学校』	2001/12
	『豊島区立郷土資料館研究紀要 第12号 生活と文化』	2002/10
(財)日本博物館協会	『博物館指導者研究協議会報告書 平成11年度』	2000/03
	『第48回 全国博物館協会報告書 平成12年度 21世紀に相応しい博物館づくりを目指して』	2001/03
	『博物館指導者研究協議会報告書 平成12年度』	2001/03
	『シンポジウム 今後の博物館の評価のあり方 報告書』	2002/03
	『イコム倫理規定』	2002/03
	『第49回 全国博物館大会報告書 一平成13年度』	2002/03
	『博物館指導者研究協議会報告書 平成13年度』	2002/03
	『平成14年度 会員名簿』	2002/10
港区教育委員会	『平成13年度 港区指定文化財』	2001/10
	『港区文化財調査集録 第6集』	2002/03
港区立 港郷土資料館	『資料館だより 第48号』	2002
	『港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告27 第1台場遺跡発掘調査報告書』	1999/09
	『港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告29-1 長門府中藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書I』	2002/03
	『港郷土資料館館報 —20— 平成13年度版(2001年度版)』	2002/07
船の博物館	『船の科学館 資料ガイド 南極観測船 宗谷』	2003/03
(株)文化環境研究所	『文環研レポート』 第15、17、19号	2001—2002
	『カルチベイト』 第13、15、17、18、19号	2001—2003
文化庁文化財部記念物課	『埋蔵文化財関係統計資料』	2001/12
明治大学学芸員養成課	『2001年度 明治大学学芸員養成課程 年報17』	2002/03
	『2001年度 明治大学学芸員養成課程 紀要13』	2002/03
くにたち郷土文化館	企画展『府中用水 —移りゆく人と水とのかかわり—』図録	2001/10
	『くにたち郷土文化館年報 第5号 平成12年度』	2002/03
	『くにたち郷土文化館 研究紀要 No.4』	2002/03
	『くにたち郷土文化館 資料目録 第1集 甲野資料目録I A、書籍・文献』	2002/07
	『くにたち郷土文化館年報 第6号 平成13年度』	2002/09
	文教地区指定50周年記念写真展『まち・ひと・くらし —写真でみるくにたち—』図録	2002/10
調布市教育委員会	『東京都調布市 埋蔵文化財年報 一平成9年度一』	1999/03
	『東京都調布市 埋蔵文化財年報 一平成10年度一』	2000/03
	『東京都調布市 埋蔵文化財年報 一平成11年度一』	2001/03
	『東京都調布市 埋蔵文化財年報 一平成12年度一』	2002/01
調布市郷土博物館	『調布市埋蔵文化財調査報告37 下石原遺跡第24地点の調査』	1999/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告38 飛田給遺跡第50地点・飛田給遺跡第7地点』	1999/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告40 下布田遺跡第46地点の調査』	1999/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告41 調布市の遺跡調査 —第3集—』	1999/03
	『郷土博物館だより』No.60～62	2001—2002
	『調布市埋蔵文化財調査報告44 上石原遺跡』	2000
	『調布市埋蔵文化財調査報告45 桜塚古墳』	2000
	『調布市埋蔵文化財調査報告43 北浦遺跡』	2000/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告51 中耕地遺跡』	2001
	『調布市埋蔵文化財調査報告50 下石原遺跡』	2001/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告52 下布田遺跡』	2001/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告53 下石原遺跡』	2001/03
	『調布市埋蔵文化財調査報告54 小島町遺跡』	2001/08
	『調布市埋蔵文化財調査報告55 深大寺城山遺跡』	2001/10
	『調布市埋蔵文化財調査報告56 飛田給遺跡』	2001/10
	企画展『新・調布案内』図録	2001/10

		『調布の文化財』 第30～31号	2001—2002
	府中市郷土の森博物館	『府中市郷土の森博物館ブックレット2 古代武蔵国府』	2001/03
		『あるむぜお』 No.58～62	2001—2002
		『府中市郷土の森博物館 年報 第15号』	2002/02
		『府中市郷土の森博物館 紀要 第15号』	2002/03
		『府中市内家分け古文書目録5 押立 町有文書目録(1)』	2002/03
		『府中市郷土の森博物館ブックレット3 詩人村野四郎』	2003/02
	福生市郷土資料室	『福生市郷土資料館年報21』	2002/03
		『文化財総合調査報告書 第二十一集 熊川分水』	2002/03
	町田市立自由民権資料館	『町田市立自由民権運動資料館紀要 自由民権』	2002/03
		『民権ボックス15 多摩の鉄道と民権家』	2002/03
新潟県	十日町市博物館	共同企画『北越雪譜と魚沼の風土』図録	2002/09
山梨県	環境省自然環境局生物多様性センター	『生物多様性センター ニュースレター』 第5、6号	2002
		『第6回 緑の国勢調査 身近な森 調査結果』	2002/03
	釈迦堂遺跡博物館	『平成12年度 釈迦堂遺跡博物館 年報第1号』	2000
		『釈迦堂遺跡博物館年報 第2号 (平成13年度版)』	2001
		特別展『抽象文土器の世界』図録	2001/10
		『釈迦堂通信 しゃかどう 8号』	2002
	八田村教育委員会	『山梨県中巨摩郡八田村 徳永・御崎遺跡』	2002/07
		『八田村 清流と文化財のまち』	2003/03
	若草町教育委員会	『山梨県中巨摩郡若草町 向第1遺跡』	2002/03
		『若草町の遺跡と文化財』	2003/02
長野県	茅野市教育委員会	『一ノ瀬・芝ノ木遺跡』	2001/03
		『下尾根遺跡』	2001/03
		『大田借り苧遺跡』	2001/03
	茅野市ハヶ岳総合博物館 (財)藤村記念館	収蔵資料展『ハヶ岳の動物たち』	2002/11
		『図録 島崎藤村』	2000/02
		『父藤村の思い出と書簡』	2002/08
	尖石縄文博物館	『茅野市尖石縄文考古館 リニューアルの記録』	2001
		平成14年度3館同時開催企画『諏訪の旧石器展』図録	2002/07
		『ハヶ岳通信』 No.20～21	2002—2003
	諏訪市博物館	企画展『描かれた諏訪社』図録	2002/02
		『竹取物語絵巻』	2003/01
静岡県	伊東市教育委員会	『伊東市史だより 3』	2002
	静岡市立登呂博物館	『静岡市立登呂博物館館報 12 平成13年度』	2002/09
	静岡県立美術館	『アマリリス』No.65～68	2002—2003
	東海道広重美術館	『館藏品 総合図録』	2002/12
	沼津市歴史民俗資料館	『資料館だより』155～158号	2001—2002
	浜松市博物館	『浜松市博物館情報 一新しい博物館をめざして』 第115～120号	2001—2002
		『浜松市博物館だより』76号、77号	2002
		『博物館資料集11 国民の世紀』	2002/02
	藤枝市郷土博物館	『藤枝市文化財年報 一平成12年度一』	2002/02
		『藤枝市文化財年報 一平成13年度一』	2003/02
		『藤枝市郷土博物館年報 14』	2003/02
	焼津市歴史民俗資料館	『焼津市歴史民俗資料館 年報16 一平成13年度一』	2002/11
愛知県	安城市歴史博物館	市制50周年記念『安城展』 図録	2002/04
		企画展『再現 からくり人形』	2002/07
		特別展『ものがたり 善光寺如来絵伝』	2002/10
		『博物館ニュース』 第45～47号	2002—2003
	豊橋市二川宿本陣資料館	『写真にみる東海道』図録	2001/04
		企画展『弥次喜多 東海道展』図録	2001/07
		開館10周年記念『琉球使節展』図録	2001/10
		『東海道五十三次宿場展X ～御油・赤坂・藤川・岡崎～』図録	2002/02
		『豊橋市二川宿本陣資料館 年報 平成11・12年度』	2002/03
		『二川宿資料集 第一集 近世豊橋の旅人たち 一旅日記の世界一』	2002/03
	豊橋市教育委員会	『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第59集 東協遺跡群』	2001/12
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第60集 中野遺跡、東郷内1号、西上遺跡、伊奈遺跡、野添遺跡』	2001/12
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第61集 二川古窯址群(Ⅱ)』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第62集 橋良遺跡(Ⅲ)』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第63集 吉田城址(Ⅴ)』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第64集 西野石灰焼窯址』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第65集 稲荷山古墳群』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第66集 本郷遺跡(Ⅱ)』	2002/03
		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第67集 市内試掘調査報告書』	2002/03

		『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第68集 馬越地区遺跡範囲確認調査』	2002/03
	豊橋市自然史博物館	『豊橋市自然史博物館年報 第14号 平成13年』	2002/06
三重県	磯部町立 図書館・郷土資料館	『古文書にみる江戸時代のいそべー 2』	2002/03
		『古文書にみる江戸時代の磯部 ～鳥羽の城下で今つく来はいそべ七郷の涙～』	2002/03
	亀山市歴史博物館	企画展『こどもも！おとなも！調べて体験博物館 秘法薬・龍心湯』図録	2002/07
		『平成13年度 亀山歴史博物館年報 第8号 2002』	2002/10
	鈴鹿市考古博物館	『天王遺跡 一第3次発掘調査報告』	1998/03
		企画展『鍋の一万年 一煮炊きの歴史一』図録	2001/07
		特別展『耳飾り』図録	2001/10
		企画展『三重のおかしな須恵器』図録	2002/01
		『天王遺跡（第5次）発掘調査報告』	2002/01
		『伊勢国分寺跡1』	2002/03
		『伊勢国分寺跡2 一第25次発掘調査概要報告』	2002/03
		『伊勢国分寺跡4』	2002/03
		『鈴鹿市考古博物館年報 第3号 平成12年度』	2002/03
滋賀県	大津市歴史博物館	『大津暦博だより』No.46～49	2002～2003
	草津市教育委員会	『草津市文化財調査報告書45 矢倉古墳第1次発掘調査概要報告書』	2002/01
		『草津川放水路関連遺跡発掘調査報告書3 中畑遺跡発掘調査報告書I』	2002/03
		『平成12年（2000年）度 草津市文化財年報』	2002/03
	滋賀県立琵琶湖博物館	『湖人 うみんど 第19号』	2001
京都府	(株)京都科学	『Museum Works』vol.10～12	2002～2003
	舞鶴市立赤れんが博物館	特別企画展『ロシアのれんがとれんが建築』図録	2001/10
		『舞鶴赤れんがりレポート 第9号』	2002
		第9回秋季特別企画展『中国のれんがと建築』図録	2002/10
		『赤れんが博物館だより』 No.32～35号	2002～2003
大阪府	大阪市立自然史博物館	『展示解説 第13集 2001 ネイチャースクエア 大阪の自然誌』	2001/03
		『吉良哲明氏紀州蒐集による 日本及び損お周辺の海産貝類 一腹足類一』	2001/03
		『大阪市立自然史博物館館報 25（平成11年度）』	2001/03
		『大阪市立自然史博物館研究報告 55号』	2001/03
		第28回特別展解説書『50周年だヨ！標本集合！一自然史博物館のあゆみ一』	2001/04
		第29回特別展『レッドデータ・生物 失われゆく 自然と生きもの』図録	2001/08
		『自然史研究』vol.2～17vol.3～1	2001～2002
		第30回特別展『世界の蝶と甲虫 岡崎宏一コレクション展』図録	2002/03
		『大阪市立自然史博物館ミニガイドNo.19 大阪の樹木 一社寺林の木 モチノキ科、ニレ科一』	2002/03
		『大阪市立自然史博物館館報 26（平成12年度）』	2002/03
		第31回特別展『化石からたどる植物の進化』図録	2002/07
	コクヨ株式会社	『TEORIA』vol.10、11	2001～2002
	富田林市教育委員会	『平成13年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』	2002/03
兵庫県	神戸市立博物館	『博物館だより』 No.73～79	2001～2003
	龍野市立歴史文化資料館	特別展『郷土玩具への想い 一駒井コレクション受贈展一』図録	2003/03
広島県	(株)熊平製作所	『抜萃のつづり その六十一』	2002/01
		『抜萃のつづり その六十二』	2003/01
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館	『発掘された日本列島2002 地域展 えひめ発掘物語』図録	2000/10
		『暦博だより』 28～32	2001～2002
		『愛媛県歴史文化博物館資料目録 第9集 近代広告資料II（絵団扇・ポスター）』	2002/02
		『研究紀要 第7号』	2002/03
		『年報 平成13年度』	2002/05
		『昭和の街かど カメラがとらえた戦後松山』	2002/07
		『昭和の街かど (CD)』	2003
高知県	高知県立牧野植物園	『高知県立牧野植物園年報 第1号（1999～2000）』	2002/03
北海道	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構	『第5回 アイヌ語弁論大会報告書 イタカン・ロー』	2002/03
	(財)アイヌ民族博物館	『アイヌ民族博物館 伝承記録6 川上まつ子の伝承 一植物編2一』	2002/03
		『アイヌ民族博物館 伝承記録7 葛野辰次郎の伝承』	2002/03
	帯広百年記念館	『帯広百年記念館紀要 第20号』	2002/03
	沙流川歴史館	『沙流川歴史館だより』No.1～5	2001～2002
	平取町教育委員会	『平取町文化財調査報告書14 平取町シリ3遺跡』	2002/03
	(財)北海道開拓の村	『北海道開拓の村研究報告2 北海道文化成立にかかわる母県文化の継承と変容』	2002/03
		『平成14年度 北海道開拓の村』	2002/05
岩手県	牛の博物館	『牛のはくぶつかん』第17～19号	2001～2002
		『モコ通信』第20～23号	2001～2002
		企画展『ミャンマー奥地の人と家畜 海外学術調査から』図録	2002/08
		『年報 平成13年度 2001.4～2002.3』	2002/10
		『家族で楽しむ企画展2003 羊は牛ですか？』図録	2002/11
福島県	奥会津地方歴史民俗資料館	『資料館だより 第1号』	2002

## 文化財

### ■文化財専門委員会

#### <委員の構成>

- ・委員長 高橋秀男（植物）／平成13年7月1日～
- ・副委員長 稲葉和也（建築）／平成13年7月1日～
- ・委員 三浦勝男（歴史）／平成13年7月1日～ 薄井和男（彫刻）／平成13年7月1日～  
小川直之（民俗）／平成13年7月1日～ 田尾誠敏（考古）／平成13年7月1日～

#### <委員会の開催>

- ・第1回／平成14年5月29日 ・平成13年度事業報告について、平成14年度事業計画について
- ・第2回／平成14年11月7日 ・平成14年度事業の状況について
- ・第3回／平成15年2月13日 ・平成14年度事業報告について、平成14年度事業の概要について

### ■文化財保護

#### <文化財巡回調査>

町内所在の国・県指定の文化財等の現状と管理状況を把握するため、現地を巡回し実態を調査した。

- ・史跡／釜口古墳、たれこ谷戸西横穴群、庄ヶ久保横穴群、楊谷寺谷戸横穴群、馬場台遺跡
- ・天然記念物／大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地
- ・無形民俗文化財／大磯の左義長、西小磯の七夕祭

#### <文化財の修繕>

- ・慶覚院仁王像看板補修設置

#### <天然記念物の現状変更>

- ・大磯高麗山の自然林についての現状変更

#### <文化財の調査>

- ・地方文書古絵図調査

#### <町指定有形文化財の保護>

町指定有形文化財17件について、町指定有形文化財管理奨励交付金を交付した。

#### <無形文化財の保護>

無形文化財について民俗資料保存団体交付金を交付した。交付対象は以下6件であった。

- ・高麗の山神輿（高麗山神輿保存会） ・国府祭（相模国府祭保存会）
- ・大磯御船祭（大磯御船祭保存会） ・小磯の七夕（西小磯七夕保存会）
- ・大磯の左義長（大磯町左義長保存会） ・白岩神社の歩射（白岩神社歩射保存会）

#### <文化財めぐり>

日 時 平成14年11月3日（日）

参加者 10人

（内容） 文化財に対する理解と保護・啓発のために文化財めぐりを行なった。本年度は「横穴墓群と高塚古墳」と題し、神奈川県指定史跡である楊谷寺谷戸横穴墓群と釜口古墳を中心に、周辺の横穴墓群を含めての見学会を行なった。狭隘な山道の踏査が主となるため、小人数での実施となった。

#### <文化財防火デー>

日 時 平成15年1月22日（水）

対 象 鴨立庵、旧島崎藤村住宅

（内容） 町内所在の文化財保有施設について、消防署の協力のもと防火設備点検を行なった。

#### <文化財調査報告書の刊行>

大磯町文化財調査報告書第46集『慶覚院藏木造仁王立像』を刊行した。

<会議>

文化財保護・活用に関する事業や埋蔵文化財に関する事業等の啓発・普及を進めるための情報交換および研究協議を行った。

- ・ 中地区文化財保護担当者会議
- ・ 神奈川県市町村埋蔵文化財保護行政連絡協議会
- ・ 県・市町村埋蔵文化財検討会議
- ・ 県・市町村生涯学習文化財協議会

■埋蔵文化財

<出土整理>

馬場台遺跡、大磯小学校遺跡等の出土品整理を行なった。

<文化財保存処理委託>

横穴墓群から出土した金属製品の保存処理を委託した。

<遺跡地図の整理>

埋蔵文化財包蔵地台帳の変更増補を行った。

<史跡整備>

県指定史跡釜口古墳の下草刈りを行った。

<事前相談>

開発等に伴い、埋蔵文化財にかかわる事前相談に対応した。相談件数は11件（個人住宅9件、住宅分譲・宅地造成2）で、このうち立会調査を実施したものが2件、試掘確認調査等を実施したものが4件であった。



文化財防火デー巡回

■埋蔵文化財調査概要

遺跡の名称	馬場台遺跡<第41地点> (No.114)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	2002(平成14)年4月25日
所在地	大磯町国府本郷1,393
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	5 m <sup>2</sup>
調査の原因	個人住宅
発見遺構	
発見遺物	白磁、灰釉陶器、土師器、赤煉瓦
遺跡の時期	古代、近代
遺物の保管	大磯町教育委員会
文献名	

遺跡の名称	No.111遺跡 (前河内)
遺跡の種類	遺物散布地
調査期間	2002(平成14)年9月20日
所在地	大磯町国府新宿字前河内677-1
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	4 m <sup>2</sup>
調査の原因	個人住宅
発見遺構	
発見遺物	調査区周辺表採(土師器、陶磁器)
遺跡の時期	
遺物の保管	大磯町教育委員会
文献名	

遺跡の名称	No.88遺跡（森下古墳）	〔立会調査〕
遺跡の種類	古墳	
調査期間	2002（平成14）年8月30日、10月22日	
所在地	大磯町国府新宿字森ノ下743	
調査機関	大磯町教育委員会	
調査担当者	國見 徹	
調査面積		
調査の原因	個人住宅	
発見遺構	なし	
発見遺物	なし	
遺跡の時期		
遺物の保管		
文献名		

遺跡の名称	馬場台遺跡<第42地点>	(No.114)
遺跡の種類	遺物散布地	
調査期間	2002（平成14年）年11月12日～22日	
所在地	大磯町国府本郷字大畑1,402	
調査機関	大磯町教育委員会	
調査担当者	國見 徹	
調査面積	30m <sup>2</sup>	
調査の原因	宅地造成	
発見遺構	道路状遺構、溝、土坑	
発見遺物	土師器、須恵器、陶器	
遺跡の時期	古代～中世	
遺物の保管	大磯町教育委員会	
文献名		

遺跡の名称	城山遺跡	(No.92)	〔立会調査〕
遺跡の種類	遺物散布地		
調査期間	2002（平成14）年12月11日		
所在地	西小磯字町屋400-1		
調査機関	大磯町教育委員会		
調査担当者	國見 徹		
調査面積			
調査の原因	個人住宅		
発見遺構	なし		
発見遺物	なし		
遺跡の時期			
遺物の保管			
文献名			

遺跡の名称	No.118遺跡	(南台)
遺跡の種類	遺物散布地	
調査期間	2002（平成14）年12月26日	
所在地	国府本郷字南台88-7	
調査機関	大磯町教育委員会	
調査担当者	國見 徹	
調査面積	4 m <sup>2</sup>	
調査の原因	個人住宅	
発見遺構		
発見遺物	土師器	
遺跡の時期		
遺物の保管	大磯町教育委員会	
文献名		

# 研究報告

---

## ウミガメ漂着の記録 (2002年)

\*北水 慶一

### 1. はじめに

2002年8月、大磯町西小磯の海岸でウミガメの産卵が確認された。本町で産卵が確認されるのは、1990年6月13日(当館記録)以来、12年ぶりのことである。近年ではとても珍しい事例であるため各誌面等で取り上げられ紹介されたが、死体漂着についても話題の多い年となった。平成13年度当館年報に1994年から2001年までの本町における漂着の記録を紹介したが、引き続き2002年の状況を報告する。

### 2. 記録

本記録は、当館で記録、撮影したものである。ウミガメの同定は背甲の形状並びに背甲鱗板の配列状態で確認している。

#### (1) 2002年6月11日確認のタイマイ

飯田福信氏(大磯町在住)、伊藤貞夫氏(平塚市在住)から当館へ連絡をいただく。大磯町大磯の大磯港東側に漂着。背甲は剥離されていたため、全長及び腹甲を計測し、記録撮影をおこなった。体長53cm、腹甲長40cm、腹甲幅31cm。翌年1月22日にエバーラスティング・ネイチャー 菅沼弘行氏・田中真一氏・石井雅之氏に写真を確認していただき、頭部の形状から本種がタイマイであることが判明した。

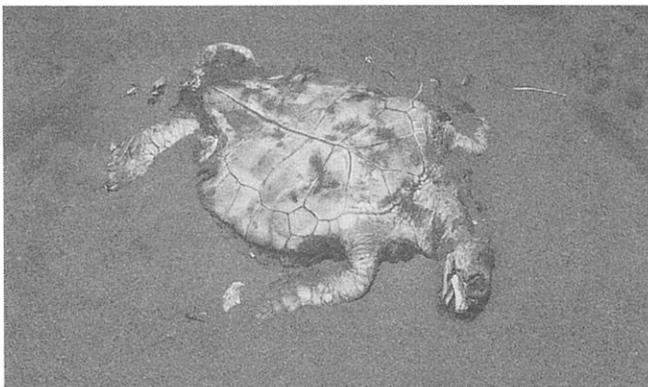


図1. 2002年6月11日に確認したタイマイ

#### (2) 2002年7月13日確認のアカウミガメ

伊藤貞夫氏から当館へ連絡をいただく。大磯町西小磯の海岸に漂着。同日、直甲長、直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は70cm、直甲幅は51cmであった。



図2. 2002年7月13日に確認したアカウミガメ

#### (3) 2002年9月1日確認のアカウミガメ

山口光一氏(大磯町在住)、石井実氏(大磯町在住)によって当館にアカウミガメの子ガメの死体が持ち込まれた。拾得場所は大磯町西小磯の海岸。直甲長は5cm、直甲幅は4.7cmであった。

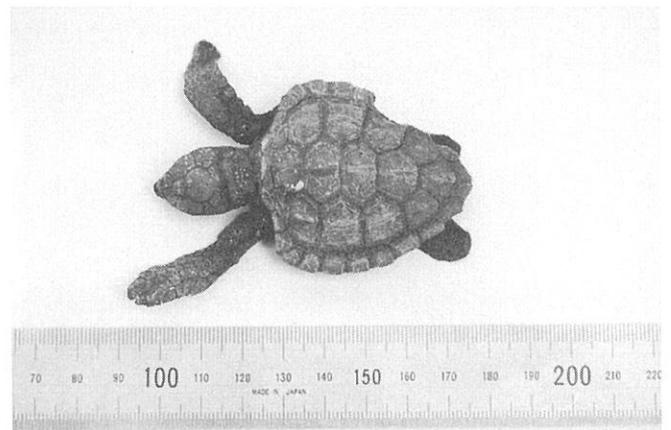


図3. 2002年9月1日拾得のアカウミガメ

#### (4) 2002年9月3日に確認したオサガメ

大磯町環境防災課より連絡をいただいた。大磯町在住の内田氏からの通報で大磯町西小磯の海岸にウミガメ漂着しているというものであった。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は101cm、直甲幅は56cmであった。翌日、かながわ海岸美化財団の協力により骨格を採集するため、漂着場所付近に埋蔵したが、翌年2月18日、回収を試みるも発見できなかった。オサガメは水産資源保護法の保護動物であり、捕獲の禁止の他、死体の処分についても農林水産大臣への報告が義務付けられている。本件ではかながわ海岸美化財団によって報告が行われた。

(\*当館学芸員)

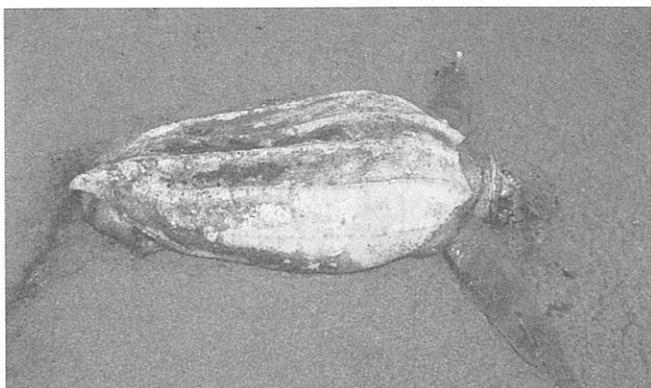


図4. 2002年9月3日に確認したオサガメ

### 3. まとめ

2002年はアカウミガメ2個体、タイマイ1個体、オサガメ1個体の計4個体を確認した。相模湾沿岸でのタイマイ、オサガメの確認記録は極めて希少である。丸山、中村(2000)の記録によると1989年から1998年の10年間に神奈川県沿岸(相模湾と東京湾の一部)で確認された個体数は、タイマイが6個体、オサガメが1個体であり、アカウミガメの241個体と比較しても極めて少ないことが分かる。このことは、丸山、中村(2000)が考察しているが、タイマイは日本周辺海域を回遊するようであるが、恒常的な生息域は南西諸島であること(亀崎,1994)、オサガメは外洋性の種と考えられており(亀崎,1994)、近海に寄りづらいついことなどが起因しているものと思われる。また、成熟段階については、産卵可能となる甲長はタイマイが60cmから80cm、オサガメが120cm以上であると考えられている(亀崎,1994)。漂着したタイマイは背甲が剥離されてしまっていたので、直接、比較はできないものの体長が53cmということから明らかに甲長は60cmより小さく、オサガメについて

も直甲長が101cmであり、共に未成熟の個体であったことが分かる。タイマイの背甲剥離の一因は、タイマイの背甲は鼈甲細工に活用されることから剥ぎ取られたのではないかと考える。

また、9月1日に当館に持ち込まれたアカウミガメの子ガメについては、当初、付近の浜で孵化し、海へたどり着くまでに息絶えたものと考えていた。しかしながら、甲長を計測してみると5cmあり、孵化直後の甲長が4cm程度であることから、孵化後、しばらく時間がたっていることが分かり、本町もしくは近隣の市町で孵化したものが何らかの理由で息絶え、漂着したと考えた方が妥当であるように思う。

過去に例のないような、ウミガメに関する情報の多い1年であったが、多くの情報が集まることで、大磯周辺海域のウミガメ類の生息環境が解明されてくるのではないかと考える。

最後に情報をいただき方々に、厚く御礼申し上げます。

### 引用・参考文献

亀崎直樹(1994):タイマイ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(I), IV. 両生類・爬虫類. 479-491.

亀崎直樹(1994):オサガメ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎調査(I), IV. 両生類・爬虫類. 519-530.

北水慶一(2003):ウミガメに関する活動の記録. 年報-平成13年度-, 26-29. 大磯町郷土資料館.

丸山一子・中村一恵(2000):神奈川県におけるアオウミガメ、タイマイ、オサガメの記録. 神奈川県自然誌資料, (21), 17-23. 神奈川県立生命の星・地球博物館.



図5 2002年大磯町におけるウミガメ漂着の確認地点(大磯町発行10,000分の1地形図「大磯全図」を縮小して使用)

1. 6月11日漂着のタイマイ 2. 7月13日漂着のアカウミガメ 3. 9月1日漂着のアカウミガメ 4. 9月3日漂着のオサガメ

生沢

なきの原

所は虫窪、主は土沢村ヤサーの人。昔親子二人淋しく暮してゐた。一家母親と息その息が伊勢参拜に行った。

けれども日が暮れても帰って来ない。たまりかねた母親、今の泣の原まで迎へに来たけれどもなかく帰って来ない。泣き／＼七度行ったり来たりした。けれども帰って来ない。とう／＼母親は泣き／＼一生こゝで終へてしまったので、こゝを泣の原と云つて今地藏さんにまつてあるのだそうです。

この泣きの原は縁起が悪いといふので、祝言は此の道を通らないそうです。

生沢

たかとり山

徳川氏が参勤交代の判を定めて以来、東海道は年々大繁昌だつたさうです。

或年箱根を越して来る大名がありました。大名のそばにはたか持といふお侍がゐたのださうです。丁度此の村の近くまで来ました時に肩に止つてゐた鳥が急に飛んでたかとり山へ逃げて来ました。そのたかを此の村の或人がおさへて殿様の所へ持つて行きました。

殿様は大喜びで「たかを取つた山はたか取山といふ名を授けてやる」とおっしゃつてたか取山と言ふのださうです。そしてたかを取つた人はたか取山から流れて一番先に入る御神田といふ田をもらひました。その田は今でも残つてあります。

\*たか狩 栗原山

中原御放鷹の村

前羽鷹

大野村

中原の

中原御殿

生沢

たかとり釣鐘

或大雨大風の時、たかとり釣鐘が横の谷へ落ちました。その釣鐘が大蛇になつて門の所にある大きな石の下にかくれたのださうです。

そしてその石を眞夜中に七回眼をつむつててんがらをかい廻るとその大蛇が出ると言つてゐますが、今だにだれもまわつたものがないそうです。

生沢

生沢寺坂の境

私の家のそばに昔から今まで土地の変つた所が一所あります。そこは昔は寺坂分だつたのですが今は生沢分になつてゐます。

昔はよこまくりといふ所が寺坂と生沢の界だつたさうですが、今はそこから十数間東の方をたかとりから流れて来る川が界となつてゐます。従つてその所にあつた二軒の家も生沢分になつてゐます。次図のとほりです。

(図省略)

泣き野原とイボ取石

この野原に行くとき、夫は外国へ洋行に行くとき、出掛けたさうです。一ヶ月位たつて妻

或一家があつたとき。夫は外国へ洋行に行くとき、出掛けたさうです。一ヶ月位たつて妻は毎日野原に立つては遠い彼方を眺めては待つていたが何日たつても夫の影形は見えない。今日も思つては野原でしく／＼泣きながら待つてゐたが、あまりのかなしさにと／＼野原で泣き死んでしまつたといふ話。

今でもよく浜が見えます。まるで円のやうになつてゐてその一部に小さな石碑みたいなものに石が五つ六つあります。

一つ借りて来てイボをこすると治ると人はよく借りて来ます。「一つ持つてこつてばな二つけえすだど。二つなら三つだど」と治るか治らないか実際にやつて見たことがないけれどもちゃんと其のまわりは芝がきれいに青々と生ひ茂つてゐるさうです。

\*なきのが原のなき石

子供が夜泣きすると

その石で□をこすると

よい

泣きの原のおまじなひ

ので母が急いで起きてみると誰も居ない。

さうして又ねると其のうち又来て「治郎ちゃんくく」と呼んで何にも見えず、唯聲ばかりして姿が見えないさうです。

度々母も狸にだまされたさうです。

生沢

老婆のか<sup>□</sup>てる

昔は私なんか若い時分角の前でよくをどつたもんだ。遊ぶ時は遊んで、働く時は一生懸命で働いたもんだ。このせつの者はだら／＼してゐる。

此のせつの者は畠へ行くにも「ヤウキ」のものを着てゆくが、昔は「紺の地織り」の袴天と股引で出かけたものだ。

生沢

池

東西の池は田の用水として応仁天皇時代に造られたさうです。明治維新時代に寺坂と生沢の境の論があつて裁判所へ出た結果生沢が勝ちました。

\*寺坂と生沢との<sup>□</sup>証文書が半分づゝある

身代り地藏様

1 武士

2 お姫様

3 絹商人

4 御用度金警護の武士

ギオン塚

祇園塚は、昔京都から公卿様が来て、よい景色なので京都の祇園町をとつてギオンヅカと言つたのです。ギオン町の清水の観音さんもあります。

新宿

石上臺

こ、は昔お六所様がお下りになつたさうです。

新宿

天皇森

こ、は昔は森で「ギオンコス天皇(祇園牛頭天王社)」といふ天皇様がこ、におさめてあつた。それは今お六所様にあるお天皇様がそです。その森は今ひらいて畠になつてゐます。その畠の真中に「サイノカミサマ」があります。

新宿

血洗川

武士を切つたものがその刀を小磯の方の川で洗つたのださうです。だからその川を血洗川といふのださうです。

\*1刀を洗つた

2身体を洗つた

新宿

私の家の畠の中の塚

家の畠の中間に大きい塚があります。私はその事を方々の人や家のおばあさんに尋ねると次のやうに話されました。

あの塚は大昔からあるけれども昔の人は馬の死んだのがいかつてゐるのだと言つて誰も手を付けなかつた。ところが段々世の中が進んでいくに従つてあの塚の中には金の刀が三振り、銀の茶釜やいろ／＼の金銀の立派なものが沢山入つてゐるのだ、そうはさされるやうになつた。

誰でもそれがほしくなり、その畠の中の塚をくづしに来るのでおぢいさんは塚のそばに小さい家を建て、番をしてゐられた。

その話を聞くと掘りたくなるだらうが、あれを掘れば掘つた家の者が三人一緒に病気になる、二人は死ぬといふ言傳へがある。だからみんな心ではほしいと思つてもそれが恐いために誰も取りに行かなくなつた。さうして今でもちゃんと昔のとほりあるのだ。

\*塚に対する一般信仰の代表的なもの

新宿

六所神社

六所神社は今の場所の西北の石神臺にまつて、あつて、山の東の下の小さな山に「ほうぞうぐう」があつたさうです。今でも芝山で残つてをります。そして宝永元年に今の所にうつしたさうです。昔は国府の町のお祭りには京都から勅使が来てお祭りをすましてゐつたさうです。

\*石上臺 石を御神体としてまつてある

中丸

相模国府趾

一番先は村長さんの宅地附近らしいと調べた方が言つて居られたが、少し変なのでよく調べたら今の神揃山麓通稱大畑地内が相模国府の趾とわかつた。理由は郷土交通の調査研究の結果、古東海道が現在の畑に沿つて東西に通過し、東は隣町大磯高麗山脚部より城山の裾を通つて大畑に至り、西は押切から二宮神社を通つて北は西久保、黒岩、虫窪の各村落を経て大畑に至る道路、それで国府が当地に置かれるに至り相模の五社が国府趾上の神揃山に渡與して祭事を執行し、今なほ行つてゐる。

その他研究資料として集められた材料が山積されてるそうだと教へていた。

中丸

かり宿

今私達が住んでゐる所をかりやどと呼んで居ります。

それはずっと昔、大雨で裏の川が氾濫して向ふへ渡ることが出来なくなつて、六月の国府の町に神様がおよりあひが出来なくなつてしまつたので、困つて何でも此の川のこちら側で假にやつたので、かりやどと言ふのださうです。

一説に頼朝富士川より歸り國府即ち假宿につき恩賞を行ふと、つまり國府廳が衰へ別に宿とすべき建物もなく假宿で行つたと云ふ。

新宿

六地藏様

昔は六地藏様が今住んでゐる「かんさん」といふ家にあつて、其の近所に六地藏様

があつたものさうです。そこにお堂があつて其のお堂の名前を「ちんちの堂」といつたさうです。そしてその入口に六地藏様があつたさうですが、今は海岸に行く方の

道のそばに赤いたすきをかけて六人ならんでゐられます。それを今では六地藏さんと呼んでゐます。南船山海保寺のもので、六地藏とは六道□□の佛□六つ祀るのです。

\*三島農園の裏

\*新宿では化地藏と呼んでゐる

\*子供の冥福を祈る、死んだ子がつけたものを着てもらふ、

馬場

座問答

一宮さんは相模總社だから俺が一番だと国府の町に言はれた。二宮さんは俺はその外国で生れて長男であるそれだから母の所へ俺が一番先に行くと言はれ、さうすると一宮さんは相模總社だからおれが一番先に行くと二人で争つた。さうすると三宮さんがそんな事を言つてゐると遅くなるといけないから、明年々と三宮さんがあづかつて一宮さんが先に行く事になる。

馬場

ぼんをどり

七夕の歌

タナバタ様や、タナバタ様や―

いちにたんじやく

あげますほかに

この手をあげて下しやんせ。

新宿

私の家の話

私の家が今立つてゐる所は昔竹藪だつたさうです。そうして下の田の左の方に大きな建物があつた。トヨカワさんといふ別荘があつてその中にお堂があつて森みたいになつてゐて夜になると家へ来て父の名を狸が呼んださうです。

或晩の事も父もねてしまつたあと、「治郎ちゃん」と呼んでゐるものがある

爾來幾百の星霜を経て来たが堂は荒廢し人々は狸堂と稱へました。

今より百數十年前大一坊と申す人が本尊を背負ひ西は伊豆東は三浦迄津々浦々の漁民に説法し、基金を集め、歸りて堂を再建し、若衆堂と稱へました。自ら寺子屋を開いて子弟の教鞭を取りましたが、師が没して再び荒廢した。

大正六年村(町)民が彩色し今は金色光々と最も神々しく町内家内安全のため各家順にお宿をして廻つて居られます。

\*文献があるかも知れぬ。

「石井おちいさん」

今井小平宅の西隣の人、

南堂(南船山海保寺)

跡(三島農園)内ニアリマス

毎年一回 杉山倉蔵様に安置し

新宿中の老人の念佛供養があります

四月二十三日に行ひます

中丸

なこうの十三塚

昔どうのしろ(堂ノ後)のなこうといふ所に大勢の武士が住んでゐましたが、ある戦争のためになくなつた武士をなこうといふ所にいけましたが、其の中で知られてゐるのは十三人の塚ださうです。

今でもどうのしろのなこうといふ所には洞穴がたくさんあつて、とても大きな穴もたくさんあるさうです。人に聞くと昔は武士がたくさん住んでゐたといふことです。

其の十三人の塚を今でも十三塚といつて呼んでゐるさうです。

\*なこうは中丸の人だけが言ふことは 馬場などでは言はない、

\*「塚」の成立年代が大へんちがつてゐる 但し、民間ではかく信じてゐる

\*塚は有史以前

生沢

生沢と寺坂との境

今の境は川になつてゐますが、昔、幾年か前に一人の順礼が此の川で死んでゐた。

それを寺坂の者は片付けないで、生沢の者が片付けたので川から向ふは生沢のものでさうです。

昔は川の向ふも少しは寺坂の分だった。証據には、すぐ川の向ふの家の少しは、墓場も寺坂にあり、一月十四日の「さいとばらい」も寺坂であります。

寺坂

馬捨場

寺坂の中部□の所に松山といふ小山があります。

その三角の底辺が五メートル位、斜面の片□が三メートル位、片方が三メートルと五十センチ位の所へ死んだ馬を捨てたさうです。

\*塚は官地 税をとらないからそこをひらいては松でも植えて、馬をすてたのだ

\*馬捨場と松

\*人間の□□と馬捨場とはつきもの

新宿

日吉神社

日吉神社は大へん大昔からの神社ださうです。名は忘れましたが或神様と木花咲耶姫の御二人がおまつりしてあるのださうです。

或時、頼朝の妻政子がお産が無事で生れるやうにといつて、神社のそばにさらと清く流れてゐる山王川の水で身を浄め、更にその水を飲んで日吉神社におまゐりしたさうです。

かなり古からの神社らしい事がわかります。十三箇所とか十二箇所とかの昔の名高い神社の中に入つてゐるさうです。石段が二ヶ所ありますが鎌倉時代ださうです。

\*風土記

日吉山王社

本地佛三尊彌陀 六月十五日

建久三年

頼朝夫人□平産所のため神馬を奉りしことあり

十二社の一として

## 資料紹介／

### 『昭和九年八月調査「未完」郷土の傳説（民間信仰史）』（山田一男著）

\*佐川和裕・\*\*加藤廣美

執筆者の故・山田一男氏は、明治四十一年に国府村（現・大磯町国府本郷）の旧家に生まれ、後に国府村役場（その後、国府町役場→大磯町役場）に勤務された。文化財や郷土史に造詣が深く、なかでも考古学に多大な関心を寄せておられたようである。武相考古学会に所属しながら地域に残る遺跡や遺物の調査を続け、さらには赤星直忠氏や石野瑛氏といった、神奈川県をフィールドとして活躍していた当時の考古学者とも親交を結んでおり、大磯に足跡を残されている両氏の水先案内人的な役割も負っていた。公務として文化財を担当されたわけではないようだが、文化財保護活動の先駆的な役割を果たしてきた人物といつてよいだろう。また、山田氏の収集した資料や情報は、現在でも当館の活動における大きな糧となっている。地元生まれ育ったことから、話者としても貴重な存在であった。

ここに紹介する『昭和九年八月調査「未完」郷土の傳説（民間信仰史）』も、山田氏の多彩な活動の一端といえることができる。原稿（原本）は山田氏と親交のあった鈴木昇氏（元・大磯町郷土資料館長）がご本人から託され所蔵しているものである。内容は国府村に伝承されていた伝説や世間話をはじめ、地名、神社、祭祀の由来などが取りまとめられている。調査年代からすると、既に役場に就かれていたものと思われるが、公務として調査したものなのかは詳らかでない。また、原稿の余白に注釈やメモが多数記されており、いわば草稿の段階であることが分かる。それゆえ執筆者自身「未完」という言葉を添えており、いずれまとめ上げて活字化するつもりであったと思われる。なお、山田氏は、既に昭和八年にも旧国府村に伝わる童謡や仕事歌などを調査されており（昭和四十年、大磯町教育委員会において『大磯町の古民謡等（旧国府地区）』という標題で簡易製本済）、この時期に民俗的な調査活動を盛んに進めていたことがうかがわれる。いずれにしても、昭和初期における調査の記録はたいへん貴重であり、現在では聞き取ることでできない事象も数多く含まれていることから、ここであらためて活字化する意義は大きいと考えている。ただし、余白の注釈やメモについては、忠実に記載することはむずかしいため、各項目後にまとめて記しておいた。

なお、本資料を紹介するにあたり、鈴木昇氏、鈴木一男氏からご教示をいただいた。記してお礼申し上げます。

【\*当館学芸員 \*\*当館臨時職員】

## 新宿

### 地蔵尊の傳説

私の町内に廻り地蔵尊があります。或日隣の老人に其の由来を聞きました。傳説に曰く

昔、徳川の初代の頃難波（浪花）の豪商淀屋辰五郎とか申す人が千石船に絹布綿布を満載して江戸に向かって出帆した。

船は矢の如く白波をけって走って来ると次第／＼に風が強くなり、此の沖合に差掛るといよいよ大暴風雨となりました。船はてんぷくせんばかりに揺られ、荷物は流し、激浪と戦ふうち、かちは折れ、帆は裂かれ、恰も木の葉の如く押流され必死となりて逆巻く波をふせげども食に食物もなく、空腹と疲労で最早晝すすべもなく唯天に祈り地の祖先を念じ、進退谷り、一同体に綱を結び帆柱に縛りつけ、手を合せ、南無阿彌陀佛を唱へ漂流してゐた。

やがて夜は徹し、暁の頃、村の漁夫が風を冒して浜辺に行つて見ると數丈の怒涛は岸にくだけ、飛沫は濛々と白煙の如く天地を覆ひ、実にせいさんを極めた。かすかに沖合を望めば黒きもの一つありました。よく見ると難船らしいからすぐに家に帰り繞を破つて警鐘を乱打した。皆驚き飛起れば、それ難破／＼だ、村民は拳つて救助に浜辺に馳集り忽ち黒山のやうな人出でした。

目の前の船を助ける術もなく互に手に汗を握つてゐた。やがて岸に近づくと數丈の狂浪にさすがの巨船も一呑にされ、あはれ船はみぢんとなり、人の影も見えず、一同暗涙にむせぶのみ。

かくて不思議や奇蹟的にも一人這ひ上り或は波に打上げられ、或は綱を投げてつかませ引上げる人もあり辛うじて乗組員全部が助けられた。然れども安心したか一同は氣絶した。村民は大聲をあげて激励し、応急手當を施した。

暫くして一同は蘇生した。彼等は無上の喜びに満ち、暫く滞在休養し、こゝに記念の為一堂を建立ししかも本尊は此の地蔵尊であります。此の堂を南船山海保寺と稱へました。彼等は厚く礼を述べ故郷に帰りました。

# 年 報

平成14年度

◇平成16年3月30日発行

◇編集発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯446-1

TEL0463 (61) 4700

FAX0463 (61) 4660